

総合教養科目

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
総合教養センター専任教員			
Subject Code : G11A01			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 戸板女子短期大学の歴史を理解し、大学生としての学びの基盤を形成することで、本学の学生として必要な教養と実践力の基礎作りをする。 (授業目標) ◎A：ものごとに対する興味と問題意識を持ち、仲間とともに積極的に課題に取り組むことができる。 B：自律した精神をもち他者と関わることができる。 ○C：そのときどきの状況を理解し、適切な判断のもとに行動することができる。 D：本学の歴史・教育理念を理解する。 短大生活を送るうえで必要とされるルール、スタディスキルを身につける。 E：ふさわしい手法を用いて自分の考えを論理的に表現できる。
授業計画	<p>1 戸板ゼミ概要、避難訓練 学長講演 戸板ゼミナールに関するガイダンス（白川） 本学の避難経路の説明と避難訓練の実施（苗村）</p> <p>2 学科別プログラム 履修に関するガイダンス 学則に関するガイダンス (服飾：新井・久保・丸山・平光 食物：谷口・吉川・川嶋・高橋真・北村 国際：別宮・高橋大・ポテフ)</p> <p>3 初年次教育1 (4教室に分かれての授業) 大学生とは（白川） レポート・論文作成術（苗村）（グループワーク：グループワークシート完成） 大学での学びとは（村木） グループワーク（中村、高橋）（グループワーク：グループディスカッションと発表）</p> <p>4 初年次教育2 (4教室に分かれての授業) 大学生とは（白川） レポート・論文作成術（苗村）（グループワーク：グループワークシート完成） 大学での学びとは（村木） グループワーク（中村、高橋）（グループワーク：グループディスカッションと発表）</p> <p>5 初年次教育3 (4教室に分かれての授業) 大学生とは（白川） レポート・論文作成術（苗村）（グループワーク：グループワークシート完成） 大学での学びとは（村木） グループワーク（中村、高橋）（グループワーク：グループディスカッションと発表）</p> <p>6 初年次教育4 (4教室に分かれての授業) 大学生とは（白川） レポート・論文作成術（苗村）（グループワーク：グループワークシート完成） 大学での学びとは（村木） グループワーク（中村、高橋）（グループワーク：グループディスカッションと発表）</p> <p>7 特別講演1（ゲスト講師） 防犯セミナー（ゲスト講師） TOITA Fes.説明（学生部） 産学連携ワーク案内（吉川・村木）（ICT:WebClass）</p> <p>8 産学連携授業1 企業からの説明（総合教養教員他担当者） （ICT活用：WebClassにて事前課題を提示）</p> <p>9 産学連携授業2（グループワーク：グループワークシート完成） グループワークシート完成（総合教養教員他担当者）</p> <p>10 産学連携授業3（グループワーク：グループディスカッション） グループディスカッション（総合教養教員他担当者）</p> <p>11 産学連携授業4（グループワーク：ポスター制作と発表準備） ポスター制作と発表準備（総合教養教員他担当者）</p> <p>12 産学連携授業5（プレゼンテーション：プレゼンテーション大会予選） プレゼンテーション大会予選（総合教養教員他担当者）</p> <p>13 特別講演2（ゲスト講師） 東京オリンピック・パラリンピックに向けて</p> <p>14 産学連携授業6（プレゼンテーション：プレゼンテーション大会決勝） プレゼンテーション大会決勝（総合教養教員他担当者）</p>

	15	<p>学科別プログラム2</p> <p>服飾芸術科：夏期休暇に関する注意事項 / 各履修モデルによるプレゼンテーション（新井・久保・丸山・平光）</p> <p>食物栄養科：夏期休暇に関する注意事項 / 定期試験諸注意（谷口・吉川・川嶋・高橋真・北村）</p> <p>国際コミュニケーション学科：夏期休暇に関する注意事項 / 各履修モデルによるプレゼンテーション（別宮・高橋大・ボテフ）</p>
学習成果・到達目標・基準		<p>◎A：ひとつひとつの課題に最後まで真摯に取り組むことができる。</p> <p>B：自らの力を伸ばしたいという意志を大切にすることができる。</p> <p>○C：そのときどきの状況で適切とされる行動が何かを考える習慣を身につける。</p> <p>D：本学の教育理念を簡単に説明することができる。</p> <p>短大生活を送るうえで必要とされるルール、スタディスキルを身につけるための努力ができる。</p> <p>E：自分の考えを整理してから相手に伝えることができる。</p>
事前・事後学習		<p>事前学習：プログラム、担当者等によるため、掲示やポータルサイトを通じての課題の指示にしたがうこと。（30分程度）</p> <p>事後学習：プログラム、担当者等によるため、授業での指示にしたがうこと。（30分程度）</p>
指導方法		<p>講義、グループワーク、講演、産学連携プログラム等、さまざまな手法の授業となる。また、1年生前期の授業であるため、学生生活に関する注意事項や説明なども行う。初年次教育1～4については、1年生全員が4グループに分かれ、4週にわたって各プログラムを受講する。事前課題の配布等についてはWebClassを利用することができる。</p> <p>フィードバックの仕方：課題提出後、評価の上返却する。質問があった場合には、個別に対応する。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準		<p>A：課題、授業への貢献度を評価する。</p> <p>B：課題、授業への貢献度を評価する。</p> <p>C：課題、授業への貢献度を評価する。</p> <p>D：課題によって評価する。</p> <p>E：課題、授業への貢献度を評価する。</p> <p>授業への貢献度50%、課題50%</p>
テキスト		なし。適宜プリント等の資料を配布する。
参考書		総合教養センターが推薦している図書（図書館及び総合教養センターに設置）、ゲスト講師推薦の図書
履修上の注意		学科、クラス、学籍番号によって、スケジュールおよび教室などが異なることが多いため、毎回連絡や掲示を各自でしっかり確認し、まちがえることのないよう出席すること。また、座席確認・着席の時間も考えて早め移動し、遅刻のないようにすること。
アクティブ・ラーニング		グループワーク、プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用		WebClassでの事前学修課題提示

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
吉川尚志、白川はるひ、苗村晶彦、村木桂子			
Subject Code : G11A02			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>(授業概要) 大学における専門科目を学ぶためだけでなく、就職試験に向けて、また社会人としての礎を築くため、基礎科目である数学と国語をそれぞれ隔週で学修する。</p> <p>(授業目標) ○C：課題への取り組みを通して大学生としてふさわしい論理的思考力を身につける。 ○D：一般的な就職試験問題を無理なく解くことができる。</p>		
授業計画	1	非言語分野① 和差算、植木算	
	2	言語分野① 小テスト：漢字書き取り 文章表現演習：400字作文 演習問題：二語の対応、熟語の意味 (ICTの活用：e-learningにて事後学修)	
	3	非言語分野② 鶴亀算、年齢算	
	4	言語分野② 小テスト：二語の対応、熟語の意味 図書館の使い方、文献検索の方法（初年次教育） 文章表現演習：文章校正・文章表現・文字表記（初年次教育） 演習問題：対義語・類義語	
	5	非言語分野③ 代金の精算	
	6	言語分野③（グループワーク） 小テスト：対義語・類義語 文章表現演習：クリティカルシンキング 演習問題：四字熟語、語句の用法 (ICTの活用：e-learningにて事後学修)	
	7	非言語分野④ 食塩水の濃度	
	8	言語分野④（グループワーク） 小テスト：四字熟語、語句の用法 文章表現演習：リーディング（1）新聞に親しむ 演習問題：同音異義・同訓異字	
	9	非言語分野⑤ 損益算、分割払い	
	10	言語分野⑤（グループワーク） 小テスト：同音異義・同訓異字、語句の用法2 文章表現演習：リーディング（2）学術的な文章を読む 演習問題：難読漢字、熟語のなりたち (ICTの活用：e-learningにて事後学修)	
	11	非言語分野⑥ 旅人算	
	12	言語分野⑥（グループワーク） 小テスト：難読漢字、熟語のなりたち 文章表現演習：ライティング（1）情報整理 演習問題：漢字書き取り、慣用句	
	13	非言語分野⑦ 覆面算、数列	
	14	言語分野⑦（グループワーク） 小テスト：漢字書き取り、慣用句 文章表現演習：ライティング（2）論理的文章の書きかた 演習問題：漢字書き取り、ことわざ・故事成語	
	15	非言語分野⑧ 言語分野⑧ 数学：仕事算 国語：模擬試験実施 (ICTの活用：e-learning)	

学習成果・到達目標・基準	○C：基礎問題の解法について、順序だてて説明することができる。 論理的な文章の基本型を理解し、書き上げることができる。 ◎D：基礎的な就職試験問題を解くことができる。
事前・事後学習	事前学習 【数学】授業内容を予習する。(30分程度) 【国語】小テストに向けてプリントやe-ラーニングの課題に取り組む。(30分程度) 事後学習 【数学】前回の課題プリントの解きなおしと毎回の課題プリントを仕上げ、総合教養センターで検印をもらうまでしっかり取り組む。(60分程度) 【国語】授業内容を復習する。小テストは合格点に達するまで繰り返し復習する。文章課題を完成させる。(60分程度) ※＜重要＞ 毎週、期限内に1F・総合教養センターへ課題を提出する(数学・国語とも)。
指導方法	履修学生を8クラスに分け、数学と国語を隔週で指導する。 【数学】授業では毎回、課題を課すので、それを週内に提出する。希望者には自学用演習プリントを追加配布する。 【国語】毎回、授業開始時に小テストを実施する。語彙力や文章力を伸ばすために、授業は講義と演習にて行う。パワーポイントを使用しての講義、ペアワークやグループワークを行う場合もある。授業で出された課題は週内に提出する。 フィードバックの仕方：小テストはその日のうちに採点し、再提出・再テストの指示を明記した状態で総合教養センターにて返却する。400字作文にはコメントをつけて返却する。 ※課題に関する質問には個別に総合教養センターにて対応する(数学・国語とも)。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：課題の提出状況と定期試験で評価する。 D：課題の提出状況と定期試験で評価する。 定期試験 50%、平常点(授業貢献度、課題) 50%
テキスト	【数学】テキスト：毎回プリントを配布する。 【国語】テキスト：毎回プリントを配布する。
参考書	『2019最新版 史上最強SPI&テストセンター超実戦問題集』オフィス海著(ナツメ社) 『レポート・論文の書き方入門 第3版』河野哲也著(慶応義塾大学出版会)
履修上の注意	【数学】プリントの枚数が多くなるので、A4サイズの二穴バインダーを準備し、プリントをファイリングすること。また、そのバインダーは毎回期日までに提出すること。 【国語】プリントの枚数が多くなるので、A4サイズのファイルを準備し、プリントをファイリングすること。 ※やむを得ず授業を欠席した場合は、授業で配布したプリントを速やかに1F・総合教養センターまで取りに行き指示に従うこと(数学・国語とも)。 ※学習内容の定着のために夏期セミナーの受講を勧める。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク
ICT・オープンエデュケーションの活用	e-learning教材の活用

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
吉川尚志、白川はるひ、苗村晶彦、村木桂子			
Subject Code : G11C03			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>大学における専門科目を学ぶためだけでなく、就職試験に向けて、また社会人としての礎を築くため、基礎科目である数学と国語をそれぞれ隔週で学修する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○C：適切な方法を用いて演習問題の正解を導き出すことで、論理的思考力を身につける。 論理的な文章を書く力を身につけ、伝えることができる。</p> <p>◎D：一般的な就職試験問題を無理なく解くことができる。</p>
授業計画	<p>1 言語分野① (グループワーク) 小テスト：漢字書き取り 文章表現演習：視野を広げる (1) 社会問題について考える 演習問題：漢字の書き取り、熟語の意味</p> <p>2 非言語分野① 対応関係、順序と位置</p> <p>3 言語分野② (グループワーク) 小テスト：漢字の書き取り、熟語の意味 文章表現演習：視野を広げる (2) グローバル社会とは 演習問題：対義語・類義語</p> <p>4 非言語分野② 展開図、サイコロ</p> <p>5 言語分野③ (グループワーク) 小テスト：対義語・類義語 文書表現演習：自己PR文 (1) 演習問題：四字熟語、語句の用法 (ICTの活用：e-learningにて事後学修)</p> <p>6 非言語分野③ フローチャート、ブラックボックス</p> <p>7 言語分野④ (グループワーク) 小テスト：四字熟語、語句の用法 文章表現演習：自己PR文を使ったワーク 演習問題：同音異義・同訓異字</p> <p>8 非言語分野④ 物流経路、PERT</p> <p>9 言語分野⑤ (グループワーク) 小テスト：同音異義・同訓異字 文章表現演習：「学生時代に力を入れたこと」 演習問題：ことわざ、故事成語</p> <p>10 非言語分野⑤ 記数法、集合とベン図</p> <p>11 言語分野⑥ 小テスト：ことわざ、故事成語 文章表現演習：「学生時代に力を入れたこと」の文章推敲、仕上げ 演習問題：誤字直し</p> <p>12 非言語分野⑥ 順列と組合せ、確率</p> <p>13 言語分野⑦ (グループワーク、プレゼンテーション) 小テスト：慣用句、誤字直し ミニビブリオバトル 演習問題：難読漢字</p> <p>14 非言語分野⑦ 資料の読み取り、線形計画法</p> <p>15 言語分野⑧ 非言語分野⑧ 国語：模擬試験実施 数学：通過算、流水算 (ICTの活用：e-learning)</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>○C：標準問題の解法について、順序だてて説明することができる。 論理的な文章の基本型を理解し書き上げ、かつ伝えることができる。</p> <p>◎D：標準的な就職試験問題を解くことができる。</p>

事前・事後学習	<p>事前学習: 【数学】 授業内容を予習する。(30分程度) 【国語】 小テストに向けてプリントやe-ラーニングの課題に取り組む。(30分程度) 授業内容を予習する。小テストに向けてプリントやe-ラーニングの課題に取り組む。(30分程度) 事後学習: 【数学】 前回の課題プリントの解きなおしと毎回の課題プリントを仕上げ、総合教養センターで検印をもらうまでしっかり取り組む。(60分程度) 【国語】 授業内容を復習する。小テストは合格点に達するまで繰り返し復習する。(60分程度) 配布された課題プリントに取り組む、授業内容を復習する。(60分程度) ※＜重要＞ 毎週、期限内に1F・総合教養センターへ課題を提出する(数学・国語とも)。</p>
指導方法	<p>履修学生を8クラスに分け、数学と国語を隔週で指導する。 【数学】 授業では毎回、課題を課すので、それを週内に提出する。希望者には自学用演習プリントを追加配布する。 【国語】 毎回、授業開始時に小テストを実施する。語彙力や文章力を伸ばすために、授業は講義と演習にて行う。パワーポイントを使用しての講義、ペア学習やグループ学習を行う場合もある。授業で出された課題は週内に提出する。 フィードバックの仕方: 小テストはその日のうちに採点し、再提出・再テストの指示を明記した状態で総合教養センターにて返却する。提出された文章課題には全体講評を通してフィードバックする。また、必要に応じて個別の添削指導等に対応する。 ※課題に関する質問には個別に総合教養センターにて対応する(数学・国語とも)。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>C: 課題の提出状況と定期試験で評価する。 D: 課題の提出状況と定期試験で評価する。 定期試験 50%、平常点(受講貢献度、課題) 50%</p>
テキスト	<p>【数学】 毎回プリントを配布する。 【国語】 毎回プリントを配布する。</p>
参考書	<p>『2018最新版 史上最強SPI&テストセンター超実戦問題集』 オフィス海著(ナツメ社) 『レポート・論文の書き方入門 第3版』 河野哲也著(慶応義塾大学出版会)</p>
履修上の注意	<p>【数学】 プrintの枚数が多くなるので、A4サイズの二穴バインダーを準備し、プリントを順次ファイリングすること。また、そのバインダーは毎日期日までに提出すること。 【国語】 プrintの枚数が多くなるので、A4サイズのファイルを準備し、プリントをファイリングすること。 ※数学・国語とも、やむを得ず欠席した場合は、授業で配布したプリントを速やかに1F・総合教養センターまで取りに行き指示に従うこと。 ※学習内容の定着のために春期セミナーの受講を勧める。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション</p>
ICT・オープンエデュケーションの活用	<p>e-learning教材の活用</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
山内明美			
Subject Code：G12A04	実務家教員による授業		

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>(授業概要)</p> <p>①基本マナーの修得、②社会人基礎力の伸長、③ホスピタリティの実践が主な内容です。洗練された立ち居振る舞い、丁寧な言葉遣い等、就職活動でも活かせるマナーを身に付けるだけではなく、付加価値となるホスピタリティ力を実践し、戸板女子短期大学の理想の女性像の基盤を創ります。また、企業側の視点に立ち、その際に必要となるコミュニケーション力、発信力、対話力も磨いていきます。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○B：信頼感を与える話し方、共感が伝わる聴き方ができる。マナーにかなった顧客対応や就職活動に臨むことができる。</p> <p>◎E：マナーの5原則を理解し、戸板女子短期大学の理想とする女性像となるような言動ができる。</p>		
授業計画	1	オリエンテーション（講義の目的と約束/演習：挨拶の極意/ホスピタリティとは）（グループワーク、ロールプレイ） 講義の目標と講義中の4つのルールを理解する。 何故挨拶が大切かを、極意で学ぶ。（正しい姿勢、綺麗なお辞儀、挨拶の後の言葉かけロールプレイ）。	サービスとホスピタリティの語源を理解し、ホスピタリティの実践を目指す意識を高める。 コミュニケーションゲームを通して、きき手の態度や受け止め方の重要性を学ぶ。
	2	第一印象の演出法（演習：スマイルトレーニング） マナーの基本となる対応の5原則（視覚的要素、聴覚的要素）を理解する。 スマイルトレーニングでは、笑顔を科学的に分析し、常に口角の上上がった笑顔が出来るように練習する。	笑顔の効用を理解し、前向きに考える癖をつける。
	3	エレガントな身のこなし1（演習：ウォーキング、椅子の座り方・立ち方、O脚をなおす体操等） ビジネスウォークとエレガントウォークを覚え、颯爽とリズムカルに歩けるよう練習する。 入退室時の挨拶、椅子の座り方/立ち方、自己紹介、傾聴の姿勢を、一連の流れで出来るように練習する。	(ICT：Web Classにて予習)
	4	敬語マスター術1（演習：敬語、接遇用語） 敬語の種類を整理し、尊敬語と謙譲語の違いを明確にする。 NGとされている言い回しと接遇用語を練習問題で繰り返し練習しながら覚える。	(ICT：Web Classにて復習)
	5	敬語マスター術2（演習：接遇話法） 接遇話法の使い方、クッション言葉+依頼形での話し方や婉曲な表現法を覚える。 実際の場面で応酬話法を用いて、綺麗な日本語で自分の思いを伝えられるよう練習する。	(ICT：Web Classにて復習)
	6	魅力的な話し方（演習：ボイストレーニング、発声発音の基本練習、スピード、イントネーション等） アナウンサーと同じ練習法で信頼される声をつくる。 表現の3原則では、声の演出法（話すスピード、間の取り方、イントネーション、プロミネンス）を中心に、魅力的で印象に残る話し方が出来るように声を出しながら練習する。	
	7	電話対応（演習：電話の特性、名乗り、電話慣用語）（グループワーク） 会ってみたいと思わせる名乗りが出来るよう、自分の話し癖を知る。 電話のかけ方、受け方の慣用表現を声に出しながら覚え、電話対応に自信を持つ。 人事への問い合わせ、お客様への留守電の残し方、商品問い合わせの受け答え、等、就活時と実際のビジネス場面での対応力をつける。	携帯電話での電話対応の留意点を理解する。
	8	積極的なきき方（演習：きき方5ポイント、アクティブリスニング、リフレクティングプラスワン話法） きき方5ポイントを覚え、きき姿勢を身につける。 相手の話を100%聴き取るリスニング力と質問力を磨く。 言葉で伝えていない思いに共感し、ホスピタリティを発揮しながら会話を続ける練習をする。	
	9	来客訪問（演習：挨拶の口上、上座下座、ドアの開閉の仕方、お茶の出し方・いただき方）（ロールプレイ） 来客訪問時の流れを理解し、訪問側と対応側に応じたロールプレイで体得する。 湯茶供給時の留意点を学び、お茶の出し方、いただき方を実際に体験する。 応接室、乗り物、エレベーター等、シチュエーションに応じた上座、下座を覚える。	会社訪問時の面接マナーを習得する。(ICT：Web Classにて予習)
	10	ホスピタリティコミュニケーション1（演習：挨拶のTP0、就活対応例）（グループディスカッション） マニュアル通りの言葉かけではない会話ができるよう場面に応じた言い回しを自分の言葉で話せるようになる。 企業側が期待する積極的で肯定的な表現を覚え、興味ある業界が求める人材に近づける。	(ICT：Web Classにて復習)
	11	ホスピタリティコミュニケーション2（演習：業界研究）（グループワーク） 販売のステップを覚え、物販サービス業界で求められる対応を学ぶ。	

	<p>自分と相手の間に立ちふさがる4つの壁を学び、ファーストアプローチ～好印象でスタートし、販売の流れに沿って、ステップを踏みながら商品提案が出来るように練習する。 アパレル、サービス業界が求める人材や業界指導での体験談を聞き、自分のキャリアイメージに繋げる。 グループ内で役割分担し、授業内で身に付けた表現力が発揮できる台本を作成する。 (ICT: Web Classにて資料作成)</p> <p>1 2 エレガントな身のこなし2 (演習: 物の授受、指し示し、ご案内、外国人との挨拶) TPOに合わせた動作のポイントを理解し、一つひとつの動きを覚える。 書類の手渡し、名刺の授受、指し示し、ご案内の仕方、ペンの渡し方をペアで何度も練習する。 外国人との挨拶、自己紹介を英語を交えて練習する。</p> <p>1 3 ビジネス文書の書き方 (演習: ビジネス文書の基本、封筒の書き方、メールの送り方) ビジネス文書の型を覚え、TPOに応じた文書作成ポイントを理解する。 封筒を使用し、字の大きさ、バランスのとり方、上座下座を考えながら練習する。 ビジネスルールに則った電子メールが送れるよう留意点を理解する。 インターンシップ先やお世話になった方への「お礼状」の書き方を覚える。</p> <p>1 4 接客ロールプレイ大会 (ロールプレイ) 販売のステップに沿った商品提案が出来るかグループ対抗戦で発表する。 マナーとホスピタリティの観点から客観評価し、今後習得すべきスキルを整理しながらキャリアイメージを描く。 (ICT活用: Web Classにてレポート作成)</p> <p>1 5 場面に応じた立ち居振る舞いと服装 (演習: 目的に応じた服装、慶事弔事の心得、パーティーマナー) (グループワーク、相互フィードバック) 面接時の持ち物、スーツ着用時のポイント、慶事弔辞での決まり、服装を学ぶ。 袱紗の使い方、祝儀袋の書き方、パーティーでの所作やテーブルマナー等、幅広い知識を覚える。 ロールプレイ大会入賞グループ発表。気づきをグループで共有する。 質疑応答。 (ICT: Web Classにて事前アンケート記入)</p>						
学習成果・到達目標・基準	<p>○B: 丁寧な言葉で話し、相手の話に反応を示しながら会話ができる。 ◎E: お辞儀、挨拶、身だしなみ、表情などで人に礼儀正しい印象を持たせることができる。</p>						
事前・事後学習	<p>事前学習: テーマごとに進めるのでテキストに目を通してから授業に臨む。Web Classでの課題に取り組む。(60分程度) 事後学習: 定期的な小テストを実施するので授業終了毎に事後学習をする。(60分程度) テーマごとの課題を分析し、反復練習し、ポイントを整理しておく。(60分程度)</p>						
指導方法	<p>・テーマ毎に①手本を示し、②ロールプレイで体得(個別指導も含む)、③学生相互で評価、④必要に応じ理想とする基準を示し、理解を深める。 ・講義内容により、①小テストを実施、②小テスト結果にコメント記載の上、返却、③授業内で正答確認、④授業後に質疑応答。理解度に応じて繰り返し行う。 フィードバックの方法: 小テストはコメント記載の上返却。演習は個別に改善ポイントをアドバイス。</p>						
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>B: 普段の授業で行うボイストレーニング及び授業を聴く態度で評価する。 E: 普段の授業での挨拶、立ち居振る舞い及び授業内での演習発表にて評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>ロールプレイ・プレゼンテーション</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>授業態度、授業への貢献度、授業内で行う小テスト</td> <td>40%</td> </tr> </table>	ロールプレイ・プレゼンテーション	30%	定期試験	30%	授業態度、授業への貢献度、授業内で行う小テスト	40%
ロールプレイ・プレゼンテーション	30%						
定期試験	30%						
授業態度、授業への貢献度、授業内で行う小テスト	40%						
テキスト	<p>テキスト: 『マナー演習』 発行元: 株式会社アッサンプラージュ</p>						
参考書							
履修上の注意	<p>マナーとは国際的にも通用するコミュニケーション表現です。授業を通じて何故必要かを理解しながら、身に付けて下さい。反復練習することで意識せず自然に表現できるようになります。カリキュラムごとに授業を進めるので継続することでマナーへの関心が深まり奥深さに気づきます。全授業に出席して、一生役に立つマナーを習得しましょう。授業内では、ホスピタリティの理解を高めるための気づきや業界別に求められる対応力をロールプレイで練習します。臨機応変な現場力も身につくので興味ある業種への情報収集をしておいてください。</p>						
アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決型学習 ・ディスカッション ・グループワーク ・相互フィードバック 						
ICT・オープンエデュケーションの活用	<p>授業内・外での理解度を図るために、Web Classを活用する。 授業内で他の学生の相互評価を可視化するために、クリッカー、ビデオ撮影を活用する。 事前アンケートにより、学生の就職活動支援のためWeb Classを活用する。</p>						

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
中山宏子			
Subject Code：G12A04	実務家教員による授業		

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	（授業概要） ①基本マナーの修得、②社会人基礎力の伸長、③ホスピタリティの実践が主な内容です。洗練された立ち居振る舞い、丁寧な言葉遣い等、就職活動でも活かせるマナーを身に付けるだけではなく、付加価値となるホスピタリティ力を実践し、戸板女子短期大学の理想の女性像の基盤を創ります。また、企業側の視点に立ち、その際に必要となるコミュニケーション力、発信力、対話力も磨いていきます。 （授業目標） ○B：効果的な話し方、聴き方ができる。マナーにかなった電話対応や就職活動に臨むことが出来る。 ◎E：マナーの5原則を理解し、戸板女子短期大学の理想とする女性像となるような言動ができる。		
授業計画	1	オリエンテーション（講義の目的と約束／演習：挨拶の極意／ホスピタリティとは）（ロールプレイ） 講義の目標と講義中の4つのルールを理解する。 何故挨拶が大切かを、極意とロールプレイで修得する（正しい姿勢、綺麗なお辞儀）。 サービスとホスピタリティの語源を理解し、ホスピタリティの実践を目指す意識を高める。	
	2	第一印象の演出法（演習：スマイルトレーニング） マナーの基本となる対応の5原則（視覚的要素・聴覚的要素）を理解する。 スマイルトレーニングでは、笑顔を科学的に分析し、常に口角の上上がった笑顔が出来るように練習する。 笑顔の効用を理解し、前向きに考える癖をつける。	
	3	エレガントな身のこなし（演習：ウォーキング、椅子の座り方・立ち方、O脚を直す体操） ビジネスウォークとエレガントウォークを覚え、さっそうとリズムカルに歩けるよう練習する。 入室時の挨拶、椅子の座り方、自己紹介、立ち方を一連の流れで出来るように練習する。	
	4	エレガントな身のこなし（演習：物の授受、指し示し、ご案内、外国人との挨拶） 動作のポイントを理解し、一つ一つの動きを覚える。 履歴書、名刺の授受、指し示しの仕方をペアで何度も練習する。 外国人との挨拶、自己紹介を英語を交えて練習する。	
	5	敬語マスター術（演習：敬語、接遇用語） 敬語の種類を整理し、尊敬語と謙譲語の違いを明確にする。 NGとされている言い回しと接遇用語を練習問題で何度も練習しながら覚える。	
	6	敬語マスター術（演習：接遇話法） 接遇話法の使い方、クッション言葉＋依頼形での話し方や婉曲な表現法を覚える。 実際の場面で応酬話法を用い、綺麗な日本語で自分の思いを伝えられるよう練習する。	
	7	魅力的な話し方（演習：ボイストレーニング、発声・発音の基本練習、スピード、イントネーション等） アナウンサーと同じ練習法で信頼される声をつくる。 声の演出法を覚え、印象に残る魅力的な話し方が出来るように練習する。	
	8	積極的な聞き方（演習：きき方5ポイント、アクティブリスニング、リフレクティングプラスワン話法） きき方5ポイントを覚え、きく姿勢を身につける。 相手の話を100%聴き取るリスニング力と質問力を磨く。 相手が言葉で伝えていない思いに共感し、ホスピタリティが発揮出来るように練習する。	
	9	電話対応（演習：電話の特性、名乗り、電話慣用句）（グループワーク） 会ってみたいと思わせる名乗りが出来るよう、話癖を知る。 電話のかけ方、受け方の慣用句を覚え、実際のビジネス場面での対応力をつける。 人事への問い合わせ台本（学外実習先申込等）を完成させ、気持ちを込めて話せるようになる。 （ICT:Web Classにてアンケート記入）	
	10	来客対応・訪問マナー（演習：挨拶の口上、ご案内、上座・下座、ドアの開閉、お茶の出し方・いただき方等）（ロールプレイ） 受付での取り次ぎ依頼～入室、着席～自己紹介、辞去の挨拶～退室までの一連の流れを、訪問側と対応側に応じたロールプレイで体得する。 お茶の入れ方、出し方、いただき方を実際にやってみる。 シチュエーションに応じた上座、下座を覚える。 （ICT:Web Classにて復習）	
	11	ホスピタリティコミュニケーション（演習：挨拶のTPO、業種別対応事例） マニュアル通りの言葉かけではない会話が出来るように自分の言葉で話す練習をする。 企業が求める対応力に近づき、興味ある業界が求める人材となる。 外国人客への対応が出来るように簡単な接客用語を練習する。（課題解決型授業） （ICT:Web Classにて復習）	
	12	業界研究（飲食サービスの現場を知る）（グループディスカッション） 飲食業界でのサービス対応力、業界で求められる人材を、現場でのサービスの流れを体験し、自分のキャリアイメージに繋げる。 面接時のNGを覚え、第一印象で加点出来るようにする。	
	13	ビジネス文書の書き方（演習：ビジネス文書の基本、封筒の表書き、メールの送り方） ビジネス文書の型を覚え、TPOに応じた文書作成力を身につける。	

	<p>実際の封筒を使用し、字の大きさ、バランスの取り方を覚える。 ビジネスルールに則った電子メールが送れるように練習する。 学外実習先等への「お礼状」の書き方を覚える。 キャリアビジョンを描く（演習：「私の理想の女性像」個別プレゼンテーション）（プレゼンテーション、相互フィードバック）</p> <p>各自の理想の女性像を具体的に考え、その理由と意気込みを一人ずつ発表する。 自分の考えを発表することで、今やるべきこと、今後修得すべきスキルを、マナーとホスピタリティの観点から整理し目標達成への計画を立てる。 プレゼンテーションする姿を客観的にみることで、デリバリー技術の向上へ繋げる。 （ICT：クリッカーにて投票）</p> <p>1 5 場面に応じた服装（グループワーク） 面接時の持ち物、スーツ着用時のポイント、慶事弔辞での決まり、服装を学ぶ。 袱紗、祝儀袋の使い方、パーティでの所作、テーブルマナー等、幅広い知識を身に付ける。 授業を通じての気づきをグループで共有。 質疑応答。 （ICT:Web Classにて事前アンケート記入）</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>○B：丁寧な言葉で話し、相手の話に反応を示しながら会話ができる。 ◎E：お辞儀、挨拶、身だしなみ、表情などで人に礼儀正しい印象を持たせることができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：テーマごとに進めるのでテキストに目を通してから授業に臨む。Web Classでの課題に取り組む。（60分程度） 事後学習：定期的に小テストを実施するので授業終了毎に事後学習をする。（60分程度） テーマごとの課題を分析し、反復練習し、ポイントを整理しておく。（60分程度）</p>
指導方法	<p>・テーマ毎に①手本を示し、②ロールプレイで体得（個別指導も含む）、③学生相互で評価、④必要に応じ理想とする基準を示し、理解を深める。 ・講義内容により、①小テストを実施、②小テスト結果にコメントを記載の上返却、③授業内で正答確認、④授業後に質疑応答。理解度に応じて繰り返し行う。 フィードバックの仕方：小テストはコメント記載の上返却。演習は個別に改善ポイントをアドバイス。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>B：普段の授業で行うボイストレーニング及び授業を聴く態度で評価する。 E：普段の授業での挨拶、立ち居振る舞い及び授業内での演習発表にて評価する。</p> <p>ロールプレイ・プレゼンテーション 30% 定期試験 30% 授業態度、授業への貢献度、授業内で行う小テスト 40%</p>
テキスト	<p>テキスト：『マナー演習』 発行元：株式会社アッサンブラージュ</p>
参考書	
履修上の注意	<p>マナーとは国際的にも通用するコミュニケーション表現です。授業を通じてなぜ必要なのかを理解し、身につけてください。反復練習することで意識せずに自然に表現できるようになります。カリキュラムごとに授業を進めるので継続することでマナーへの関心と一生役立つマナーを修得出来ます。全授業に出席しましょう。業種別に求められるコミュニケーション力をロールプレイで練習します。現場で求められる対応力が身につくので積極的に参加することが重要です。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>・課題解決型学習 ・ディスカッション ・グループワーク ・プレゼンテーション ・相互フィードバック</p>
ICT・オープンエデュケーションの活用	<p>授業内外での理解度を図るために、Web Classを活用する。 授業内で他の学生の相互評価を可視化する。 事前アンケートにより、学生の就職活動支援のためWeb Classを活用する。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
松岡友子			
Subject Code：G12A04		実務家教員による授業	

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	（授業内容） ホスピタリティあふれる、戸板女子短期大学の目指す理想の女性像に向けての第一歩となる授業です。まずマナーの6原則の基本を身につけます。型にとどまらない心のこもったマナーがホスピタリティへとつながることを理解し、実践できるようにします。また、グループワークやペアワークで繰り返し練習することで、自分の魅力を自信をもって表現する力を身につけ、生涯を通して役立つコミュニケーション力の向上へとつなげていきます。 （授業目標） ホスピタリティを表現するためのスキルとマインドを身につける。 ○B：美しい言葉遣いで、相手と良好な関係を築くための効果的な話し方、聴き方ができる。 D：サービス接遇検定3級に合格する。 ◎E：マナーの6原則を理解し、女性として手本となるような言動ができる。ホスピタリティを理解し、場面に応じた対応がスムーズに行える。面接の際のマナーを理解し、自信を持って就職活動に臨むことができる。
授業計画	1 オリエンテーション（グループワーク／スピーチ：グループ内で一人ずつ発表） 講義の到達目標の確認と、授業の共通ルールの徹底 挨拶と自己紹介 マナーを学ぶ必要性を理解し、修得意識を高める （ICT：WebClassで自己紹介文を提出） 2 第一印象の重要性（グループワーク／演習：グループ内でチェックしながら演習） 人間関係に大きく影響する第一印象の重要性を、マナーの6原則から理解する 自身の強み、改善点を把握する 第一印象を向上させるためのポイント（表情・身だしなみ）を確認する 3 立ち居振る舞い（グループワーク／演習：グループ内でチェックしながら演習） 美しい立ち姿勢・お辞儀・座り方・歩き方・物の授受などを実習により修得する 一連の流れで実習し、定着させる 4 サービス接遇実務検定試験対策（1） 試験の目的と心構え、意義を理解する 練習問題、解説により知識を得る 5 美しい日本語（1）（グループワーク：グループ内で練習問題を解く） 尊敬語・謙譲語・丁寧語を正しく使いこなせるまで繰り返し練習し修得する 6 美しい日本語（2）（グループワーク：グループ内で練習問題を解く） マジックフレーズを使えるよう練習する 間違いやすい言葉遣いに注意し、正しい言葉遣いを修得する 練習問題により理解度をはかり、課題を明確にする 7 サービス接遇実務検定試験対策（2） 授業前に課題として過去問題を解く 授業内で解説を受け、理解を深める 質疑応答により疑問を払拭する 8 電話対応（グループワーク／演習：グループ内で演習） 電話対応の特徴を理解し、印象の良い第一声を修得する かけ方、受け方のポイント、慣用表現を理解する 9 手紙・ビジネス文書・メールの書き方 封筒の宛名書き・手紙の形式・書類送付状の書き方・メールの書き方を理解する 実際にメールを送信する（課題） 10 冠婚葬祭のマナー 冠婚葬祭におけるマナーを理解する 11 食事のマナー 和洋の食事のマナーについて理解し実践できるようになる 12 好感の持てる話し方・積極的な聴き方（グループワーク／スピーチ：グループ内で演習） 聴き方（傾聴力）・訊き方（質問力）などアクティブリスニングの方法を実習する ボイストレーニングを行う 正しい言葉遣いで堂々とハキハキと話せるようにする 感じの良い話し方のポイントを理解し、感情豊かに自分を表現し、信頼される話し方で発表する 自身を客観視し、改善ポイントを抽出するためにスマートフォンで撮影する （ICT：スマートフォンにて動画撮影） ホスピタリティーが感じられる聴き方を修得する 13 訪問のマナー（グループワーク／演習：グループ内で演習） 訪問前の準備・心構え・席次を理解する 受付でのマナー・取り次ぎ依頼を修得する ドアの開閉・ご案内・お茶の出し方・いただき方を修得する 14 面接演習（1）（演習：グループ毎に演習） 当授業で学んだことのポイントを振り返り、演習前にイメージングする 一連の流れを演習し、自信を持ってできるようにする 自身を客観視し、課題を抽出するためにスマートフォンで撮影する （ICT：スマートフォンにて動画撮影）

	15 面接演習（２）（演習：実技発表） 各々の課題に対する改善ポイントを理解し、さらに表現力を高める演習を行う 成果の確認のため、自身をスマートフォンで撮影する （ICT：スマートフォンにて動画撮影）
学習成果・ 到達目標・基準	○B：正しい言葉遣いでスピードや声の大きさに配慮して話すことができる。 傾聴を意識して感じのよい聴き方ができる。 D：サービス接遇検定３級の勉強を通じて、幅広い知識を理解し身につける。 ◎E：お辞儀、挨拶、身だしなみ、表情、言葉遣いなどで人に礼儀正しい印象を持たせることができる。ホスピタリティを意識し、日頃から向上心を持って努力できる。面接試験における入室から退室までの一連の流れを、動作と言葉を添えて行うことができる。
事前・事後学習	事前学習：事前に配布された配布プリントには目を通してくる。サービス接遇検定の過去問題対策の前には問題演習を行う。（90分程度） 事後学習：前回までの授業内容を実生活で積極的に反復練習したり、提出課題に取り組む。（60分程度）
指導方法	1. テーマごとにグループワークやペアワークでロールプレイを実施（個別指導も含む）し、体得する。 2. 講義や問題演習とも併用して確認する。 3. プロジェクター・パワーポイントなど、パソコン機器を利用する。 4. 内容によっては課題提出を課す。 課題によっては、WebClassを活用して提出や発表を行う。 フィードバックの方法：プレゼンテーションなどの発表にはタイムリーに口頭でアドバイスを行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	B：常に美しい言葉遣いを心がけ、演習時だけでなく授業中も気持ちのこもった話し方、聴き方を心がけているかを評価する。 D：サービス接遇検定３級を受検する意欲、合格に向けた努力を評価する。 E：お辞儀、挨拶、身だしなみ、表情、言葉遣いなどがきちんとなくとも、礼儀正しい印象を持たせようとしているかを評価する。ホスピタリティを常に意識している姿勢を授業内でも示しているかを評価する。面接試験における入室から退室までの一連の流れを身につけようとしているかを評価する。 演習・発表 30% 定期試験 30% 授業態度・授業への貢献度 40%
テキスト	・配布プリント ・「誰とでも仲良くなれる敬語の使い方」松岡友子（明日香出版社）
参考書	早稲田教育出版 実務技能検定協会編 サービス接遇検定３級公式テキスト／サービス接遇検定実問題集３級
履修上の注意	毎週の授業で反復練習することで、自然と身についたマナーを表現できるようになります。 毎回の授業は前回までのマナーの積み重ねですので、休まず出席してください。 マナーに対しての意識の向上に努めてください。
アクティブ・ラーニング	実技、ディスカッション、グループワーク、スピーチ
ICT・オープン エデュケーション の活用	WebClass、スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	総合：選択
担当教員			
白川はるひ			
Subject Code : G12C05			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 自らのキャリア形成を考えるための入門編的授業である。労働市場や業界・職種・企業について、就職活動や社会人として求められる力について、また、自分自身について理解を深めていく。 (授業目標) 社会情勢を客観的にとらえながら自分自身の生き方を多角的に考え、一生続くキャリア（＝生き方）選択の力を養う。 ◎A：自らの目標を明確に掲げて学びの計画をたて、その計画に基づいた実践と省察を繰り返すことができる。 ◎C：社会情勢、労働、キャリア理論、および自己に対する理解を深め、卒業後の自らの生き方をより明確にする。
授業計画	<p>1 授業ガイダンス、キャリアセンターの役割 ・授業に関するガイダンス ・キャリアセンターの役割、入学後のキャリア支援について（キャリアセンター）</p> <p>2 自己分析1 ・自己分析テストの実施</p> <p>3 キャリアデザインとは ・キャリアデザインとは何か ・キャリアデザインが必要とされる時代的背景とは (ICTの活用：Web Classにて事後学習)</p> <p>4 目標をたてる（グループワーク） ・社会が求める力 ・効果的な目標の立て方（初年次教育） ・キャリア理論① (ICTの活用：Web Classにて事後学習)</p> <p>5 自己分析2（ゲスト講師） ・自己分析テストの結果と解説 ・自己分析テストの結果をどのように活かすかを考える (ICTの活用：Web Classにて事後学習)</p> <p>6 自己分析3（グループワーク） ・自分の強み、価値観を考える ・タイムマネジメントとは（初年次教育） (ICTの活用：Web Classにて事後学習)</p> <p>7 人生100年時代の生き方を考える1（グループワーク） ・女性をとりまく社会事情 ・キャリア理論② (ICTの活用：Web Classにて事後学習)</p> <p>8 人生100年時代の生き方を考える2（グループワーク） ・ライフプランと資金 ・キャリア理論③ (ICTの活用：Web Classにて事後学習)</p> <p>9 就職試験について ・就職サイトの説明（キャリアセンター） ・就職試験について (ICTの活用：Web Classにて事後学習)</p> <p>10 プレゼンテーションの仕方（ゲスト講師） ・プレゼンテーションの基礎 (ICTの活用：Web Classにて事後学習)</p> <p>11 人生100年時代の生き方3（ゲスト講師） ・事例から学ぶこれからの時代のキャリア形成 ・今後の労働市場について (ICTの活用：Web Classにて事後学習)</p> <p>12 業界・企業・職種研究1（ゲスト講師） ・業界への理解を深める (ICTの活用：Web Classにて事後学習)</p> <p>13 業界・企業・職種研究2（ゲスト講師） ・企業・職種への理解を深める (ICTの活用：Web Classにて事後学習)</p> <p>14 前期の過ごし方を省察する（個人ワーク） ・省察とは何か。 ・前期の自らの過ごし方をふりかえり、自らの学びについてまとめる</p> <p>15 前期のマイキャリアと今後のキャリア計画（プレゼンテーション） ・卒業後の目標と前期の学び・成長をもとに、今後の学修計画を考え発表する ・キャリア理論④</p>

学習成果・到達目標・基準	◎A：目標にむけた計画書を作成し、その実践結果を省察することができる。 ○C：社会の現状、業界や自分自身に関する理解等をもとに、自らの今後のあり方について説明することができる。
事前・事後学習	事前学習・・・1週間の自らの成長（学び、気づき、挑戦など）についての整理（30分） 配布された課題文の読みこみ あるいは ワークシートへの書きこみ（60分） 事後学習・・・自らたてた行動計画の実践に関してのふりかえり（30分） 授業内で指示された事後課題（小テスト、ふりかえり、ワークシートなど）への取り組み（60分程度）
指導方法	授業は原則として、パワーポイントやプリントを使用しての講義と、個人ワーク、グループワークで進められる。授業で学び、考え、計画をたてて実行し、それらをふりかえって次の授業に臨むという一連の流れが本授業では求められる。卒業後の目標をより具体的にし、前期のみずからの成長について説明する。配布物はすべてファイリングし、最終的にポートフォリオとして完成させる。 フィードバックの方法： 提出物に対しては、必要に応じ全体講評を通してフィードバックする。質問には適宜応じる。 適宜ルーブリックを活用しながらフィードバックを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：最終課題の内容、提出物の内容、授業貢献度によって評価する C：最終課題の内容、提出物の内容、小テストによって評価する 最終課題30% 小テスト10% 平常点60%（提出物50%、授業への貢献度10%）
テキスト	無し。適宜プリントを配布する。
参考書	大宮登 著『理論と実践で自己決定力を伸ばす キャリアデザイン講座 第2版』日経PB社, 2014 吉田あけみ 編著『ライフスタイルからみたキャリア・デザイン』ミネルヴァ書房, 2014 他
履修上の注意	・グループワークの多い授業である。履修者全員の力が伸びるよう、協力的に参加すること。 ・やむを得ず欠席をした場合は、総合教養センターまで配布物をとりにいくこと。 ・2穴ファイルを用意すること
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション、個人ワーク
ICT・オープンエデュケーションの活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：選択
担当教員			
鹿島我、白川はるひ、苗村晶彦、中村公子、村木桂子、高橋佳子			
Subject Code : G13C06		実務家教員による授業	

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 入学後の学生生活、就職活動、そして卒業後の社会での生活など、今後、さまざまな場面で必要不可欠となるプレゼンテーションスキルについて基礎的なことを学ぶ授業である。多くの学生が持つ「プレゼンテーションに対する苦手意識」を払拭し「プレゼンテーションの魅力」に気づき、理解してもらうため、わかりやすく楽しく能動的に学べる内容とする。 (授業目標) プレゼンテーションの多様なスキルを正しく理解し、状況に応じて使い分けることで、自己の主張を正しく相手に伝え、相手の主張を正確に理解すること。 ○B 自己の主張を正確に相手に伝え、相手の主張を正確に理解することができる ○E 習得したスキルを状況に応じて的確に選択し表現手法として活用することができる
授業計画	1 オリエンテーション 授業ガイダンス 円滑な受講のための準備 2 プレゼンテーションの定義（講義・演習） 受講のための5つの約束 プレゼンの定義を理解するための演習① 3 プレゼンテーションの基礎①（演習） プレゼン嫌いの原因を探る演習 4 プレゼンテーションの基礎②（演習） プレゼン嫌いを払拭するための演習 5 プレゼンテーションの基礎③（演習） 時間間隔を認識するための演習 6 プレゼンテーションの基礎④（演習） 時間内に発表するための演習 7 プレゼンテーションの基礎⑤（演習） 質問力を高めるための演習 8 プレゼンテーションの理解①（個人発表） 個人でのプレゼン発表 (ICTの活用：スマートフォン あるいは タブレットPC) 9 プレゼンテーションの理解②（フィードバック） 前回の各人の発表を検証 10 プレゼンテーションの理解③（演習） グループワーク「正面から考える」 11 プレゼンテーションの理解④（演習） グループワーク「逆から考える」 12 プレゼンテーションの応用①（グループワーク） 発表内容のベース作成 13 プレゼンテーションの応用②（グループワーク） 発表内容のブラッシュアップ 14 プレゼンテーションの応用③（グループ発表） テーマに沿った発表 (ICTの活用：スマートフォン あるいは タブレットPC) 15 まとめ 授業に関する感想と各自の成長について発表
学習成果・到達目標・基準	○B プレゼンテーションスキルを駆使し他者とコミュニケーションをとることができる ○E 状況に応じた的確なプレゼンテーションスキルを選択し表現することができる
事前・事後学習	事前学習：毎回の授業後半に発表する次回の授業テーマについて、自己で内容を推測し、関連する映像資料等を視聴する（60分程度）。 事後学習：毎回の授業内容に関して自己で振り返る（60分程度）。また、他の授業や普段の生活において、習得したスキルを積極的に活用する。
指導方法	講義は基本的にパワーポイントを使用して進める。一方的な講義ではなく、グループワークを積極的に取り入れる。個人発表、グループ発表についても予定している。 フィードバックの仕方：課題については、次回の授業で全員に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	B グループワークでの積極性と毎回の授業レポートを総合的に評価する。 E 個人発表とグループ発表の内容を総合的に評価する。 授業への積極的な参加30%、課題の取組み30%、プレゼンテーション発表40%
テキスト	無し。適宜プリントを配布する。

参考書	無し。
履修上の注意	必要と認めた場合以外でのスマートフォンの使用、無用な飲食等、消極的な授業への参加とみなされる場合は出席と認めないので注意すること。また、グループワークにおいてはグループの和を乱すような態度や言動を慎むこと。プレゼンテーションスキルは個人差が大きいため、各自が自分の現在のレベルを正しく認識し、成長可能な目標を各自が掲げ、目標達成を積極的に目指してほしい。
アクティブ・ラーニング	グループワーク ディスカッション プレゼンテーション
I C T・オープンエデュケーションの活用	スマートフォン タブレットPC

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
小野田奈穂			
Subject Code : G13C07			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 心理学は、人の心のはたらきを研究する学問であり、学習心理学・発達心理学・性格心理学・社会心理学・臨床心理学等、多様な領域にわたる。多様な領域の中から、学生の関心が高く、また学生と関わりが深いと思われるテーマを選び、そのテーマについての理論や概念を学ぶ。日常生活に関連するような内容も含まれているので、各自考えを深め、生活の中で応用できるように具体的な例を多く出しながらか講義をすすめる。 (授業目標) ○B：対人関係にまつわる心理学の理論を通じて、人の話を聴き、自分の考えを上手に伝える力を身につける。 ◎C：日常生活における様々な物事について新しい視点を知ること、物事を多面的に深く考えられるようになる。
授業計画	1 オリエンテーション 心理学とはどのような学問か？ 2 感覚・知覚・認知 人はどのように環境や情報を捉えるのか 3 動機づけ “やる気”のこころの働きを知る 4 性格 「人生の木 (time of tree)」から見つめなおす 5 発達① 人の発達を学ぶ 6 発達② 人の発達を学ぶ 7 青年期の心理 青年期特有の心理発達を学ぶ 8 家族の心理 心理学の視点から家族を捉える 9 対人関係と恋愛心理 心理学の視点から対人関係と恋愛について考える 10 対人関係とコミュニケーション① 自分の気持ちを上手に伝える方法を考える 11 社会の中の心理 他者や社会との関係を考える 12 ストレスの心理学 ストレスの仕組みと対処を考える 13 心理療法から学ぶ 日常生活での工夫を学ぶ 14 勉強を頑張るコツ 勉強を頑張るコツを心理学の視点から考える 15 対人関係とコミュニケーション② 人の話を上手に聴く方法を考える
学習成果・到達目標・基準	○B：実際の対人関係の場において、上手なコミュニケーションのための工夫を取り入れて応用できる。 ◎C：日常生活で当たり前として考えることになかったような物事にも違う視点があるということを知り、視野を広げて捉えることができる。
事前・事後学習	事前学習：生活の中で生じる疑問や相談したいような気がかりなことについて意識して考えてみる。(90分) 事後学習：自身の生活に照らし合わせながら、講義の内容を振り返る。(90分)
指導方法	授業は原則として、プロジェクターを使用し、パワーポイントや図表等を示し、それに沿った講義を行う。また、心理学という学問を体験的に理解できるよう、簡単な心理検査等を体験できるようにする。ワークシートを使って日常生活に応用できるよう練習する。講義終了時に、毎回コメントペーパーを書かせ、疑問の解消や講義のふりかえりと整理を行えるようにする。 フィードバックの方法：コメントペーパーに書かれた疑問点や質問には次の回で答えるか、学生に問いかけて解決していく。
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：受講態度（コメントペーパー含む）と定期試験を評価する。 C：受講態度（コメントペーパー含む）と定期試験の記述回答を評価する。 定期試験70% 受講態度（コメントペーパー含む）30%
テキスト	適宜プリントを配布する。

参考書	『心理学』 東京大学出版会 『心理学の基礎 改訂版』 培風館
履修上の注意	他者の心理を読み取る術や他者を操作する方法などは心理学の学問ではないことを理解して受講すること（講義内容にもこのような内容は含まれていない）。心理学は、それぞれが自身の体験に引き付けながら学ぶことにより一層関心を持てる学問であるので、積極的に学ぶ姿勢を持って講義に参加することがのぞましい。授業中の私語や携帯の使用、途中退席等は厳禁。
アクティブ・ラーニング	
ICT・オープンエデュケーションの活用	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
村木桂子			
Subject Code : G13C08			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) この授業では文学を単に読解するのではなく芸術として全体を鑑賞する。芸術によって呼び起こされた“未だ知り得ない自分”を感じとり、それを表出することによって「自分にとってかけがえのないものとは何か」をさぐる楽しさを味わう。芸術に触発されてものごとの本質に触れることの奥深さ、喜びを味わい、心ふるえる経験を積み重ねることにより、生涯を通じて形成される教養・価値観・感性などの基盤づくりを目指す。 (授業目標) B：自分の意見を持ち、相手の意見も受け入れながらお互いを尊重し合うことができる。 ○D：授業で得た知識を理解し、興味を持ったことがらについて主体的に情報を得、学びを深めることができる。 ◎E：自分なりの言葉を用い、授業で得たことについて表現することができる。
授業計画	1 オリエンテーション (ペア・ワーク) 授業内容、授業の進めかた、評価方法に関する説明、文学・絵画・彫刻・音楽それぞれの世界のもつ表現法 2 神谷美恵子『生きがいについて』 (グループディスカッション) 彫刻を鑑賞する、感じる、書く、話し合う (ICT：WebClass) 3 絵本『てぶくろを買いに』『泣いたあかおに』『おにたのぼうし』 (グループディスカッション) 異文化理解、相互理解 (ICT：WebClass) 4 夏目漱石『夢十夜』 (グループディスカッション) 名作を色で味わう (ICT：WebClass) 5 太宰治『走れメロス』 (ペア・ワーク) 人は自分が予期するかたちで欲しいものを手に入れるとは限らない (ICT：WebClass) 6 東山魁夷という文学 (グループディスカッション) 絵画を鑑賞する、感じる、書く、話し合う (ICT：WebClass) 7 日本人にとって美しさとは何か① 絵画や工芸を中心に 8 日本人にとって美しさとは何か② 絵と文字の交わり 9 日本の伝統文化：和紙 (ペア・ワーク) 日本の紙の製造法、原料、そして現在の用法 10 日本の伝統文化：和菓子 五感を使う総合芸術 11 日本の伝統文化：歌舞伎 歌と舞踊と演劇によって構成される総合芸術 12 モーツァルト① (ペア・ワーク) 音楽を鑑賞する、感じる、書く、話し合う 13 モーツァルト② (ペア・ワーク) 音楽を鑑賞する、感じる、書く、話し合う 14 モーツァルト③ (ペア・ワーク) 受け容れることの大切さ 15 文学とAI (ペア・ワーク) 二つの間にあるもの
学習成果・到達目標・基準	B：他者の言葉に耳を傾けながら、自分の意見も人に伝えることができる。 ○D：授業で得た知識を理解し、人に伝えることができる。 ◎E：授業で学び得たことについて味わい感じたことを、表現することができる。
事前・事後学習	事前学習：日ごろから美術、音楽、文学などジャンルを問わずさまざまな芸術と出会う機会を持つ。(60分程度) 事後学習：授業で学んだことからの要点をおさえ、ノートや資料を整理し理解を深める。(60分程度) 授業中に紹介された本や資料を読み、芸術一般についての興味・関心を広げる。(60分程度)
指導方法	すぐれた芸術作品に触れ、演習(グループディスカッション、ペア・ワーク)を通して自分が感得したものと丁寧に向き合う。毎回200字～400字程度の文章を書きより深く芸術と交わる。正解よりも思考を深めることを重視する。パワーポイントを中心に講義をおこない、必要に応じて視聴覚教材も使用する。 フィードバックのしかた：毎時間の提出物にコメントを書いて返却する。

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	B：相手の意見を受け入れつつ、自分の意見も持つ積極的な姿勢を評価する。 D：提出物、試験によって評価する。 E：提出物、試験によって評価する。 定期試験：60%、授業後の提出物：30%、授業参加態度：10%（総合的に評価する）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。
履修上の注意	個人で取り組む課題や意見を交換しながらの演習があるが、いずれも積極的な参加を期待する。授業中の演習参加と課題提出が重要であるため、課題は必ず提出すること。受講者の興味・関心等に応じて授業計画が一部変更される場合がある。
アクティブ・ラー ニング	グループディスカッション、ペア・ワーク
I C T・オープン エデュケーション の活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
村木桂子			
Subject Code : G13C09			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 国語力の四要素（話す・聞く・書く・読む）のトレーニングを総合的に積みあげるにより複眼的思考、論理的思考といった考えかたの基礎力を養う。ペア・ワーク等で課題に取り組むことによりコミュニケーション力を高め社会で活用できる日本語の力を身につける。 (授業目標) B：受信した情報について考え、意見をまとめ、根拠を提示しながら発信することができる。 ◎D：授業で学んだ日本語の知識について理解し、使用することができる。
授業計画	<p>1 リレー作文、オリエンテーション 言葉をめぐるワーク、授業内容、授業の進めかた、評価方法に関する説明</p> <p>2 文章表現の工夫 表現の工夫いろいろ</p> <p>3 美しく話す（ペア・ワーク） コミュニケーションの基礎・日本語に関わる資格紹介</p> <p>4 言葉と向きあう 似た言葉とその違いについて</p> <p>5 ”自分流”国語辞典を作る 辞典の特色を学ぶ</p> <p>6 対義語（ペア・ワーク） 注意深く言葉を選ぶ</p> <p>7 描写のしかた（ペア・ワーク） 根拠ある意見の述べかた (ICT：WebClass)</p> <p>8 絵の分析（ペア・ワーク） 論理的文章の書きかた（初級） (ICT：WebClass)</p> <p>9 テキスト分析（1）（ペア・ワーク） 論理的文章の書きかた（中級） (ICT：WebClass)</p> <p>10 テキスト分析（2）（ペア・ワーク） 〔確認小テスト〕論理的文章の書きかた（上級）</p> <p>11 日本語の特徴（ペア・ワーク） 外から見た日本語</p> <p>12 オノマトペ（ペア・ワーク） 私たちの言語生活を豊かにするために</p> <p>13 話し言葉と書き言葉（ペア・ワーク） 社会人基礎能力を身につけるために</p> <p>14 日本語の文字（ペア・ワーク） 私たちが使用する文字の由来</p> <p>15 手紙・メール（ペア・ワーク） 書き言葉のコミュニケーション</p>
学習成果・到達目標・基準	B：他者の言葉に耳を傾け、自分の意見を人に伝えることができる。 ◎D：授業で学んだ日本語の知識について理解することができる。
事前・事後学習	事前学習：日ごろからジャンルを問わずさまざまな本（活字）に触れ、多様な言葉の感覚を磨く。（60分程度） 事後学習：授業で学んだ日本語の知識について要点をおさえ、ノートや資料を整理し理解を深める。（60分程度） 授業中に紹介された本や資料を読み、日本語について興味・関心の幅を広げる。（60分程度）
指導方法	ペア・ワークを中心として、正解よりも考えることを重視した授業を行う。テーマごとに口頭演習した内容を文章で再確認することにより、日本語コミュニケーション力を「話す・聞く・書く・読む」の観点から総合的に養う。講義は主にパワーポイントで進め、視聴覚教材も適宜利用する。 フィードバックのしかた：提出物にはコメントを書いて個別指導する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：ペア・ワークにおける聞く態度や、授業中の積極的な発言、提出物を評価する。 D：試験によって評価する。 定期試験：60%、授業中の課題提出30%、授業参加態度10%（総合的に評価する）

テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。
履修上の注意	ペア・ワークや個人で取り組む課題があるが、いずれも積極的な参加を期待する。授業中の演習参加と課題提出が重要である。演習に役に立つので、辞書（電子辞書も可）を準備して授業に臨むとよい。
アクティブ・ラーニング	ペア・ワーク
I C T・オープンエデュケーションの活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
牧野唯			
Subject Code : G13C10			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 日本の住まいは気候風土や社会環境と深く結びついているだけではなく、家族やコミュニティに固有の生活論理をもっています。住まいを考えることは、ライフスタイルや個性を活かした暮らし方をコーディネートすることでもあります。住生活の視点から現代の住まいをとりまく諸問題をとりあげ、これからの住まいを創造する力を養います。 (授業目標) 住空間に対する理解をもとに、独自の提案を創造しコーディネートができること ◎C：住まいの現状と諸問題に対して、課題の解決方法を述べることができる ○D：住宅・建築の基礎的な知識・用語の説明ができる
授業計画	<p>1 ガイダンス 授業内容／授業のすすめかた／評価方法／次回の予習 ICT：WebClassにて予習・復習</p> <p>2 住まいの様式①世界の建築・住宅 気候風土と住まい／環境共生／インテリア様式の変遷 ICT：WebClassにて予習・復習</p> <p>3 住まいの様式②日本の住宅史 日本の伝統的建築／多様な住まい／伝統を活かしたインテリア ICT：WebClassにて予習・復習</p> <p>4 住まいの様式③現代の住まい モダンデザイン／建築材料／ユニバーサルデザインの今 ICT：WebClassにて予習・復習</p> <p>5 住まいの機能①落ち着く場所 居場所の役割／趣味の部屋／寝室のインテリア ICT：WebClassにて予習・復習</p> <p>6 住まいの機能②食事・調理の空間 キッチン・台所の歴史／食事と文化／現代のダイニングルーム ICT：WebClassにて予習・復習</p> <p>7 住まいの機能③安全・安心のインテリア計画（実習：空間寸法の測定） 防災・減災／家具と収納計画／人間工学／環境心理 ICT：WebClassにて予習・復習</p> <p>8 住まいの機能④おもてなしのインテリア 玄関の歴史／座敷の変遷／和洋折衷住宅／暮らしの中の和 ICT：WebClassにて予習・復習</p> <p>9 住まいの快適性①光環境と照明（実習：光の測定） 光のコミュニケーション／照明デザイン／窓・装飾 ICT：WebClassにて予習・復習</p> <p>10 住まいの快適性②色彩計画 色と文化／カラーコーディネーション／インテリアへの応用 ICT：WebClassにて予習・復習</p> <p>11 住まいの快適性③室内環境の調整 熱環境／音環境／換気・通風／持続可能な住まい ICT：WebClassにて予習・復習</p> <p>12 住まいのコーディネーション①基礎（実習：簡単な製図） 住宅平面の考え方／単位空間／生活様式／間取りの計画</p> <p>13 住まいのコーディネーション②基礎（実習：人体寸法の測定） 空間における家具・人の位置／パーソナルスペース</p> <p>14 住まいのコーディネーション③応用（プレゼンテーション：カラージュによる作品） 家族の変化／ライフスタイル／若年者・高齢者の住まい</p> <p>15 住まいのコーディネーション④応用（プレゼンテーション：カラージュによる作品） 地域とのつながり／ワークライフバランス／これからの住まい</p>
学習成果・到達目標・基準	◎C：ライフスタイルや個性を反映させた住まいを提案することができる ○D：住居と生活のなりたちについて理解する
事前・事後学習	事前学習：テキストの内容をふまえて参考資料を収集する。本学図書館の参考図書を読む（1時間） 事後学習：WebClassによる予習・復習、ワークシート・レポートの作成（2時間）
指導方法	視覚教材、WebClassを用いて授業を進めます。 講義の内容はテキストの予習を前提とし、WebClassの課題をもとに、参考資料を収集して積極的に授業へ参加してください。 また、理解を深め知識を定着するために、WebClassに演習問題を提示します。学習状況を把握するため、WebClassを活用し自主学習の取り組み状況、進展を確認します。作成したレポートは積極的に提出してください。

	<ul style="list-style-type: none"> ・専門知識の確認テスト (WebClassによる予習・復習) ・室内環境の測定や製図等の作業によるワークシートの作成 ・中間演習 (テーマごとに理解度を確認, 確認テストを行う) ・期末課題 (コラージュの作成) フィードバックの仕方 ・WebClass①課題提出: 指摘事項の確認, ②ワークシート: 返却, 指摘事項をもとに修正・再提出
アセスメント・成績評価の方法・基準	C: 課題の内容, レポート内容を評価する D: 確認テスト, 自主学習の進展, 定期試験の結果を評価する ワークシート・レポート・期末課題 (40%), 中間演習 (30%), 定期試験 (30%) により評価する
テキスト	『住まいのデザイン』朝倉書店
参考書	インテリアコーディネーター ハンドブック統合版<上巻・下巻>, インテリア産業協会
履修上の注意	空間を理解するため, 寸法をはかったり, 図面に描いたりすることを習慣にしましょう。練習を積み重ねれば, 誰でも上手に描けるようになります。室内環境の測定や製図等の作業を行いますので, 手足を動かしながら学んでください。 ※定規, カッター, カッターマット, 色鉛筆, スチノリを持参
アクティブ・ラーニング	実習, プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	WebClass

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
高橋佳子			
Subject Code : G13C11			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 「健康」という大きなテーマの中から、現代社会が及ぼす心身への影響について重点をおきながら、自身の「健康」とは何かを探る授業とする。 健康に関する知識を修得するとともに、グループワークを実施し、他者との意見交換を実施し自身の考えを深める。 (授業目標) ○A：学生間のグループ討議を通して積極的に人と意見交換を実施し、生涯に通ずる「健康」のあり方を自分自身で探ることができる。 ◎D：現代社会が及ぼす心身への影響についての知識を身につけることができる。
授業計画	1 ガイダンス 目的、授業における留意点、成績評価、自分にとっての健康とは何かを他者と共有する 2 健康の定義（グループワーク：グループごとにまとめを発表） WHOによる健康の定義 3 身体と教育 第二次世界大戦前～第二次世界大戦後～現代 4 現代社会と健康1 日本の健康問題 5 現代社会と健康2（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 世界の健康問題 6 現代社会におけるストレスと健康のかかわり1 身体の健康とメンタルヘルス 7 現代社会におけるストレスと健康のかかわり2 ストレスとストレスコーピング 8 人間関係 話す力と聞く力について考える 9 発達段階 年齢別の運動の意義 10 ライフスタイル1 健康と余暇活動を考える 11 ライフスタイル2 自分自身のライフスタイルを考える 12 高齢者の健康 生涯スポーツの紹介と意義 13 救急法 障害時の救急、災害時の対応 14 女性の健康（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 女性の身体について 15 健康とは 生涯を通じて自分にとって健康とは何かを考える
学習成果・到達目標・基準	○A：他者の意見を聴き、その上で自身の考えをまとめることができる。 ◎D：現代社会の課題について理解し、自身のライフスタイルと関連づけることができる。
事前・事後学習	事前学習：健康に関するニュースや本に眼を通すように心がけ、配布した記録用紙に記入する。（90分程度） 事後学習：授業で得た知識を一過性のもので終わらせないように、毎授業終了時にまとめプリントを作成する。また、個人で配布した資料を整理し、実践していくようにこころがける。（90分程度）
指導方法	講義は基本的にパワーポイントを使用して進める。 適宜、グループワークを取り入れる。 意見交換を積極的に行う中で「健康とは何か」を自覚できるようにする。 フィードバックの仕方：まとめプリント提出後、評価の上返却する。質問があった場合には、個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：グループ討議での態度、授業への貢献度を評価する。 D：授業終了時のまとめプリント・レポート、定期試験を評価する。 受講態度10%、授業終了時のまとめプリント・レポート30%、定期試験60%
テキスト	なし 必要な資料・プリントをその都度配布する。

参考書	「健康管理能力検定3級公式テキスト」 一般財団法人 全国健康管理能力検定協会 監修 「健康管理能力検定2級公式テキスト」 一般財団法人 全国健康管理能力検定協会 監修 「健康・体力・スポーツ 大学生のための保健体育理論」 横浜保健体育理論研究会 編 学術図書出版 「人間関係づくりトレーニング」 星野欣生著 金子書房 「健康・運動の科学 介護と生活習慣病予防のための運動処方」 田口貞善監修 講談社
履修上の注意	自分にとっての健康とは何かを考えながら、積極的な姿勢で授業へ臨むこと。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
ICT・オープンエデュケーションの活用	なし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
阿部かほり			
Subject Code : G13C12			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 子どもの発達の特徴について解説する。同時に、子どもにとってのあそびの発達の意義についての解説し、絵本やおもちゃなど実践的な紹介もおこなう。また、子どもや家族を取り巻く現代の環境と課題についても扱う。 (授業目標) 子どもの発達の道筋を知り、子どもが育つために必要な環境について理解を深められるようになること。 ◎C：子どもの発達を学び、子どもに必要な関わりや現代の子育てを取り巻く問題について自分なりの考えをもつことができる。 ○E：おもちゃ作りや絵本の読み聞かせなどの実践を通して、これまで自分の中に育ってきた感性を表現できる。
授業計画	1 オリエンテーション 授業の目的、内容、計画、子どもの養育に関する生涯発達心理学の考え方について説明する。 (クリッカー) 2 妊娠と出産 映画「うまれる」を題材にして、妊娠や出産、親としての成長について概説する。 (レポート① Web Classで提出) 3 胎児期から誕生まで 人間の胎児期の特徴について、概説する。 4 乳児期の発達(新生児期から1歳頃まで) DVD『赤ちゃん 不思議な成長の道のり』を題材に、新生児期から1歳ころまでの子どもの発達の特徴について、概説する 5 子どもにとってのあそびと学び(グループディスカッション) あそびは子どもの発達にどのような意味があるのかを概説する。 6 幼児期の発達①(2歳ころから就学前) 2歳ころから就学前の子どもの発達の特徴について、概説する。 7 幼児期の発達②(2歳ころから就学前) 2歳ころから就学前の子どもの発達の特徴について、概説する。 8 小学校への入学(グループディスカッション) 就学前の保育から小学校への接続期について扱う。小学校に入学するまでに身につけたい力について概説する、また、小学校に入学する子どもの発達の特徴について、概説する。 9 子どもとあそび①：手遊びの紹介と手作りおもちゃ 簡単な手作りおもちゃを製作する。材料、用具などについては、授業内で説明する。作品は提出する。(課題①) 10 小学校低学年 小学校低学年の児童の発達の特徴について、概説する。 11 現代社会に於ける子どもの発達と養育の課題 現代の子育てを取り巻く環境、保育制度、子育て支援制度について、課題点も含めて概説する。 12 子どもとあそび②：絵本(プレゼンテーション) 絵本の意義について理解を深めるため、各自絵本を1冊持ち寄って、読み聞かせをおこなう。 13 特別な配慮を必要とする子ども①：発達障害 子どもの発達障害について、障害の特徴と必要な援助、社会的な課題を概説する。 14 特別な配慮を必要とする子ども②：児童虐待と子どもの貧困 映画『誰も知らない』を題材に児童虐待と子どもの貧困について、社会的な課題を概説する。 (レポート② Web Classで提出) 15 子どもの発達を学ぶ意義 生涯にわたる生きる力を育むため、乳幼児期に必要な養育の環境についての総括をおこなう。自分自身の発達と関連付けて考える。 (クリッカー)
学習成果・到達目標・基準	◎C：子ども自身が育っていく力と育つ環境を子どもの発達に関連づけることができる。 ○E：親子の関わりを豊かにするものとして、課題であるおもちゃ作りと絵本の読み聞かせができる。
事前・事後学習	事前学習：テキストの該当箇所を読み、その年齢の頃の自分自身のことを思い出したり、家族に聞いたりして、用紙にまとめる。(60分) 子育てや教育に関するニュースの記事を探し、読んでおく。(60分) 事後学習：授業時に配布したプリントを見直し、自分なりの考えをまとめる。課題が出された場合、課題に取り組む。(60分)
指導方法	毎回、授業内容を記したプリントを配布する。パワーポイント、DVDなどの視聴覚教材を使用する。 フィードバックの方法：課題返却時にクラス全体に対して講評を行う

アセスメント・成績評価の方法・基準	C：定期試験の記述回答・レポートの内容を評価する。 E：製作したおもちゃの作品とあそび方を評価する。 授業への意欲・態度20%、レポートと課題30%、定期試験50%で評価する。
テキスト	『汐見稔幸 こども・保育・人間』学研プラス
参考書	授業の際に紹介する
履修上の注意	授業中の私語、携帯電話の使用は禁止です。ただし、授業に関することで必要な場合のみ携帯電話の使用は可能。 絵本の実践演習の課題では、各自絵本を用意してもらいます。絵本は、自分が幼少期に読んでいたものなどを持ってきてください。買う必要はありません。近くの図書館などで借りてきてください。詳しくは授業内で説明します。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、プレゼンテーション
I C T・オープンエデュケーションの活用	Web Class、クリッカー

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
丸藤知子			
Subject Code : G13C13			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業内容) 世界の有名な遺産100件と日本の遺産全23件(2020年4月現在)の中から、テキストとスライド画像を用いて講義を進めていきます。古代遺跡やヨーロッパの建築、大自然の絶景や神話にまつわる地域など、世界旅行をしているような気分を味わいながら、世界遺産検定3級合格のためのポイントをおさえて各回を進めていきます。 (授業目標) 市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得。知的関心をもって学修していく心構え、異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の養成。 ○C：「地球上の多様な価値観」を理解し、環境保全や国際平和の重要性を認識できる。 ○C：世界の動きに対する関心を高め、批判の目で自分の意見を発表できる。 ◎D：世界遺産検定3級レベル試験で90%以上の得点を取得することができる。
授業計画	1 イントロダクション なぜ世界遺産を学ぶのか 2 世界遺産の基礎知識1 ユネスコと世界遺産条約、世界遺産誕生のきっかけ 3 世界遺産の基礎知識2 登録までの流れ、世界遺産の種類と数、危機遺産と負の遺産 4 日本の世界遺産1 知床、白神山地、平泉、日光の社寺、富岡製糸場と絹産業遺産群、小笠原諸島、ル・コルビジエの建築作品 5 日本の世界遺産2 富士山、白川郷・五箇山の合掌造り集落、古都京都の文化財、古都奈良の文化財、法隆寺地域の仏教建造物群、紀伊山地の霊場と参詣道、姫路城 6 日本の世界遺産3 石見銀山遺跡とその文化的景観、厳島神社、原爆ドーム、明治日本の産業革命遺産、『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産、屋久島、琉球王国のグスク及び関連遺産群 7 基礎知識と日本の世界遺産の復習 6回目までの総復習 8 世界の文化遺産1 人類誕生とヨーロッパ古代文明、アジア世界の形成と宗教 9 世界の文化遺産2 ヨーロッパ中世、アメリカ、アフリカ、オセアニア 10 世界の文化遺産3 近代国家の成立と世界の近代化 11 世界の文化遺産4 危機遺産、時事問題 12 世界の自然遺産 世界の自然遺産 13 検定直前確認テスト 第40回世界遺産検定に向けた直前の確認テスト 14 グループワークと発表 グループワークと発表 15 グループワークと発表 グループワークと発表
学習成果・到達目標・基準	○C：世界遺産を通して、「地球上の多様な価値観」を理解する。 ○C：世界の動きに対する関心を深め、批判の目と自分の意見を持てるようになる。 ◎D：世界遺産検定3級レベル試験で60%以上の得点を取得することができる。
事前・事後学習	事前学習：講義テーマに対する、教科書の該当箇所を事前に読んでおく。(90分) 事後学習：授業後には当日実施した内容を振り返り、知識を深めること。(90分)
指導方法	指導方法 テキストとスライド画像、講義資料(プリント)を用いて講義を進めていきます。 内容を理解しやすい様に、世界旅行をしているような気分を味わいながら、授業を進めていく。 フィードバックの仕方 リアクションペーパーを返却の際に総括のコメント、また質疑応答にてフィードバックをする。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：「地球上の多様な価値観」を理解し、環境保全や国際平和の重要性を認識できている事を定期試験で評価する。 C：世界の動きに関する自分の意見を発表し、それを評価する。

	D：検定試験直前確認テストの結果を評価する。 定期試験：60% 授業貢献度：20% 検定試験直前確認テスト：20% ※検定合格で成績評価1ランクアップ（例B評価の場合→A評価に）
テキスト	きほんを学ぶ世界遺産100＜第2版＞ 世界遺産検定 3級公式テキスト 世界遺産検定公式過去問題集 3・4級 2020年度版
参考書	
履修上の注意	世界遺産検定（学内で実施）の申込方法は別途、授業内で案内します。
アクティブ・ラーニング	グループワーク 発表
ICT・オープンエデュケーションの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
白川はるひ			
Subject Code : G13C14			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 女性に関するテーマを切り口に日本社会を読み解いていく。そこから立ち現れる現代社会の傾向や課題、それぞれの関連性や原因を理解し、今を生きる当事者である自分がどのように行動していくべきかについて思索する。 (授業目標) 参政権を持つひとりの社会構成員として、社会への問題意識と参画意識をもつ。 ◎C：授業で扱った課題を自分事として捉え、解決策の事例提示と自らとるべき行動について説明することができる。 現代に立ち現れる諸課題の関連性を考え、図示し、それを自分のことばで説明することができる。 ○D：現代の日本女性をとりまく諸課題の現状について、データを示しながら適切に説明することができる。
授業計画	1 授業ガイダンス、日本社会の抱える課題を概観する（グループワーク） ・ガイダンス（授業内容、授業方法、評価方法に関する説明、諸注意） ・現代社会のテーマからひとつを取り出し、現代の特質を考える 2 「女性らしさ」とは（グループワーク） ・「女性らしさ」とは何か 3 人口減少社会と女性（グループワーク） ・人口減少の原因 ・人口減少社会のなかでの女性の生き方 4 女性と仕事（ディスカッション） ・女性の雇用・就業の現状 5 女性の貧困（ディスカッション） ・女性の貧困の現状と原因 6 女性と育児（ディスカッション） ・仕事と育児の両立について 7 女性活躍事例（プレゼンテーション） ・事例研究 ・女性リーダーについて 8 女性と家族（ディスカッション） ・家族機能の変容 9 女性と医療（ロールプレイ） ・生殖医療について 10 女性と老後（ディスカッション） ・女性の老後問題 11 女性と教育（ディスカッション） ・女性の教育機会に関する現状と原因 12 女性と政治（ディスカッション） ・女性の政治参加の現状と意味 13 女性と地域（グループディスカッション） ・地域社会の現状やその役割について (ICTの活用：Web Classにて小テスト) 14 より良い社会を目指して1（グループディスカッション） ・現代日本社会の課題の解決策について考える (ICTの活用：Web Classにて事後課題) 15 より良い社会を目指して2（発表と討論） ・現代社会に関するそれぞれの考察と自らの今後のあり方について発表し討論する (ICTの活用：Web Classにて事後課題)
学習成果・到達目標・基準	◎C：授業で扱った現代社会の課題についての具体的解決策の事例を調べ説明することができる。 現代に立ち現れる諸課題を関連させて考える視点を持つ。 ○D：現代の日本女性をとりまく諸課題を複数挙示し、簡単に説明することができる。
事前・事後学習	事前学習：毎日のニュースチェック（30分） 事前に配布した課題文を読み、予習ワークシートに取り組む（90分） 事後学習：事後学習用ワークシート、あるいはWeb Classでの事後課題、小テストに取り組む（60分）
指導方法	授業は主に、①前回授業の復習 ②ディスカッション ③講義 という構成となる。ディスカッションは毎回代表者を決めて行い、その代表者によるディスカッションを中心としながらクラス全体に対しても問いかけをしていくかたちで進める。ロールプレイングやプレゼンテーションなどの遇もある。講義の際は基本的にはパワーポイントにて進め、適宜DVDなどの視聴覚資料も利用する。 フィードバックの方法： ・ディスカッションについては学生同士の相互フィードバックおよび教員からのコメントにて行う。 ・提出物については、クラス全体に対して教室にて、あるいは課題返却時に個々にコメントを記載するかたちで行う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストはWebClass受験時に自動的に達成度、正解および解説が分かるようになっている。 ・必要に応じてルーブリックを活用しながらフィードバックを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>C：授業における発言内容、提出物の内容、定期試験の結果を評価する。 D：授業における発言内容、提出物の内容、小テスト・定期試験の結果を評価する。</p> <p>定期試験 40%、 提出物 30%、 授業貢献度（発言内容、参加度）20%、 小テスト10%</p>
テキスト	なし。適宜プリント教材を配布する。
参考書	<p>松田健『テキスト現代社会学 第3版』ミネルヴァ書房, 2016 岩間暁子ほか『問いからはじめる家族社会学 多様化する家族の包摂に向けて』有斐閣ストゥディア, 2015 加藤秀一『はじめてのジェンダー論』有斐閣ストゥディア, 2017 小杉礼子・宮本みち子 編著 『下層化する女性たち 労働と家庭からの排除と貧困』勁草書房, 2015 他</p>
履修上の注意	<p>時事問題が得意でないが理解を深めたいと考えている学生、ディスカッションは得意でないがその力を伸ばしたいと考えている学生の参加も歓迎する。理解を深めること、ディスカッションスキルを伸ばすこと、その両方を目標に履修して欲しい。 事前課題に充分取り組んでこそそのディスカッションとなるため、それを心得て履修すること。</p>
アクティブ・ラーニング	グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション、ロールプレイ
I C T・オープンエデュケーションの活用	Web Class

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
井上近子			
Subject Code：G13C15		実務家教員による授業	

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 近年、小売業を取り巻く環境は厳しい状況にあり、小売業者による生活者ニーズに合った店づくり、商品の品揃えなど満足いく対応が求められている。本講義は、流通における小売業の基本的役割を理解し、流通経路の重要性や店舗形態別小売業の特徴を解明していく。さらに、中小小売業の現状と役割、商業集積の変遷や課題についても取り上げる。2月に実施される「リテールマーケティング（販売士）検定3級」受験に対応し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 (授業目標) 流通業界の第一線で活躍できる人材として「リテールマーケティング（販売士）検定3級」程度の知識を修得する。 ◎D：製造業、卸売業、小売業の基本的役割および流通のしくみを理解し、店舗形態別小売業の現状と課題を述べることができる。
授業計画	1 流通とは何か 小売業の定義、流通構造について 2 小売業の歴史の変遷 小売業を取り巻く社会環境の変化、新しい業態の台頭について 3 日本における小売業の特徴 零細性、過多性、多段階性について 4 小売業の機能と役割 小売業が消費者に提供している便益について 5 卸売業の機能と役割 需要結合、情報伝達、金融、リスク分散、物流、リテールサポートについて 6 製造業の流通経路政策 開放的流通チャンネル政策、選択的流通チャンネル政策、排他的流通チャンネル政策について 7 販売形態の種類と特徴 業種と業態の違い、有店舗販売と無店舗販売について 8 衣料品店の販売形態 百貨店の売上高推移と低迷要因、専門店の強みと弱みについて 9 食料品店の販売形態 総合品ぞろえスーパー、スーパーマーケットの店舗形態について 10 医療品、化粧品の販売形態 ドラッグストア、コンビニエンスストアの品ぞろえ特性について 11 欧米で生まれた小売形態 アウトレットストア、スーパーセンター、ホールセールクラブの特徴について 12 チェーンストアの種類と特徴 経営上のメリットとデメリット、レギュラーチェーン、フランチャイズチェーン、ボランタリーチェーンの違いについて 13 フランチャイズシステムの概念 フランチャイザー（本部）とフランチャイジー（加盟店）の役割について 14 ショッピングセンターの動向 商圏による4つの分類、新業態の展開について 15 商店街の課題 活性化の条件、大型店と共存共栄について
学習成果・到達目標・基準	◎D：小売業に関する流通チャンネルや業種・業態の特徴について説明できる。
事前・事後学習	事前学習：新聞記事や経済誌、テレビ等で新規出店やリニューアル、新業態に関するニュースを確認する（60分程度）。分からない専門用語を調べてまとめておく（60分程度）。 事後学習：興味のある記事・ニュースを1つ取り上げて、要約する（60分程度）。
指導方法	教科書、プリント、パワーポイント、DVDを基本とした講義形式で行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることを心がけることが大切である。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する授業内小テスト、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験60%、授業内で実施する小テスト20%、受講態度・貢献度20%
テキスト	「販売士養成講習会3級テキストⅠ」日本商工会議所・全国商工会連合会編
参考書	「流通論」著者：村松幸廣・井上崇道・村松潤一 出版者：同文館 「流通の基本知識」著者：宝子山嘉一・松原寿一 出版社：評言社

履修上の注意	服飾芸術科の学生で「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の資格取得を目指す場合は、本科目と「商品企画」「販売と経営」の3科目すべてを同学期に履修し、以下の条件を満たすことで、検定試験5科目のうち1科目が受験免除される。①第1回の授業に出席すること（本学で受験免除希望者名簿を作成するため）。②11月末に学内で実施する予備試験までの出席率が80%以上であること。③予備試験は70点以上であること。
アクティブ・ラーニング	特になし
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
苗村晶彦			
Subject Code : G13C16			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 宇宙や地球レベルの話から個々の生活レベルの話まで範囲は広がるが、一つひとつは物質と生命との相互作用で繋がっていることを理解する。また、地球の自然が作られた歴史や物質や生命の歴史を辿り、人間活動との関わりを理解を深める。更に、データサイエンスや、心の問題にも焦点を充て、グローバルかつローカルな環境と人間に係わる問題を考える。 (授業目標) ◎C：環境の知識を活用し、環境問題の本質を理解することができる。 ○D：環境問題を地理や歴史と体系立てて理解することができる。
授業計画	<p>1 生きている地球 地球上の季節の変化や、生命の営みについて理解する。</p> <p>2 アリストテレスの四元素と暦 星座や、二十四節気について理解する。</p> <p>3 星と太陽系の惑星 星や太陽系の惑星の知識を修得し、かけがえのない地球を考える。(グループ発表)</p> <p>4 地球の歴史 地球46億年の歴史を辿る。</p> <p>5 酸素とオゾン 生活環境で絶対に必要な酸素について考え、オゾンの知識を習得する。(グループ発表)</p> <p>6 水 身近な水について考える。</p> <p>7 データサイエンスの演習 ビッグデータを用いて、データ解析の楽しさを学ぶ。(グループ発表)</p> <p>8 心のエネルギーの活性 心の問題を、古典から解き明かし学ぶ。</p> <p>9 日本の世界遺産 日本の誇るべき世界遺産について学ぶ。(グループ発表)</p> <p>10 地球温暖化について 化石燃料とエネルギー問題、地球温暖化による生態系への影響を理解する。</p> <p>11 芝公園の環境について調べる(フィールドワーク) 芝公園に出かけ、環境について考える。</p> <p>12 世界や日本の河川と身近な河川 世界や日本の河川について学び、川の水質について調べる。</p> <p>13 人間の歴史と公益(ゲスト講師) ゲスト講師が、人間の歴史と公益の観点から講義を行う。</p> <p>14 生物の寿命とメス・オス ヒトや他の生命の寿命を考え、メスとオスの役割を認識する。</p> <p>15 地球レベルと個々の生活(グループ発表) Think globally, act locally.</p>
学習成果・到達目標・基準	◎C：身のまわりの環境を理解することができる。 ○D：身近な環境問題について考えることができる。
事前・事後学習	事前学習；プリントを読み関連のある箇所を読む(90分程度) 事後学習；配布されたプリントを復習し、演習問題を再度解く(90分程度)
指導方法	配布するプリントや、パワーポイント等を使用して講義を進める。 また、科学等のテーマでグループ発表を行う。 フィードバックの仕方：プリント返却時に指導する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：環境の問題について定期試験で評価する D：環境について定期試験で評価する 定期試験80%、受講態度20%
テキスト	毎回プリントを配布する。
参考書	『地球環境化学入門・改訂版』J.E. アンドリュース著、渡辺正翻訳(丸善出版)
履修上の注意	記入式のプリントを配布する。 講義を欠席する場合、理由を明記して欠席届の提出を行う。

アクティブ・ラーニング	グループ発表がある。また、フィールドワークがある。
ICT・オープンエデュケーションの活用	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
苗村晶彦			
Subject Code : G13C17			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 物質の構成や結合を理解し、化学の基本となる物質の考え方を身につける。化学反応式を理解し、中和反応や酸化還元反応を学ぶ。また、有機化学は炭素を中心とした独特の世界が広がっており、生命現象の根本となる有機化学をわかりやすく説明していく。高校で理論化学や有機化学を履修しなかった場合にも対応できるように行っていく。演習も重要視する。 (授業目標) ◎C：化学の知識を使って、ミクロな物質の仕組みを理解する。 ○D：モルを理解し、有機化学を系統立てて理解する。
授業計画	1 周期表 化学に親しむために、周期表に関することを学ぶ。(個人の発表) 2 物質と原子：物質の成分、構成要素 純物質と混合物、原子や分子、原子内の電子配置を学ぶ。 3 価電子、原子量・分子量 最外殻電子や、原子量について学ぶ。 4 化学結合 イオン結合や共有結合について学ぶ。 5 物質の三態 物質の状態変化について学ぶ。 6 物質量 モルについて学び、演習を通し理解を深める。 7 化学反応と化学反応式 化学反応式について理解する。 8 酸・塩基、中和 酸と塩基の強弱や、中和反応を理解する。 9 酸化還元反応 酸化数や還元数について理解し、酸化・還元剤の知識を修得する。 10 炭素の結合について 有機化学の根本となる炭素の性質について理解する。 11 官能基と異性体 主要な官能基を覚え、異性体を理解し演習を行う。 12 脂肪族炭化水素、アルコール 二重結合や三重結合の知識を修得し、アルコール類の種類や性質を学ぶ。 13 糖質の化学 三大栄養素の1つである糖質を学ぶ。 14 脂質の化学 三大栄養素の1つである脂質を学ぶ。 15 タンパク質の化学 三大栄養素の1つであるタンパク質を学ぶ。
学習成果・到達目標・基準	◎C：化学の知識を使って計算問題を解くことができる。 ○D：化学の単位を理解し、炭素の性質等を考えることができる。
事前・事後学習	事前学習：テキストや参考書を読み関連のある箇所について学ぶ(90分程度) 事後学習：テキストや配布されたプリントを復習する(90分程度)
指導方法	テキストに従って授業を進める。また、随時プリントを配布し、パワーポイント等を使用して講義を進める。 フィードバックの仕方：数回小レポートにて理解度を確認し、返却時に指導する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：化学の知識や計算問題について定期試験で評価する。 D：モルや有機化学等を定期試験で評価する。 定期試験80%、受講態度20%
テキスト	『視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録』数研出版編集部編(数研出版)
参考書	
履修上の注意	授業を欠席する場合、理由を明記して欠席届の提出を行うようにする。
アクティブ・ラーニング	個人の発表がある。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
苗村晶彦			
Subject Code : G13C18			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>(授業概要) 細胞・生殖・遺伝現象や、生物の成り立ちと種族維持の仕組みについて理解し、生命の連続性の見方や考え方を身につける。ヒトの体を知ることは生物学の本質であるが、その不思議なメカニズムや働きを知り、生命の大切さや尊厳について学ぶ。また、生物の進化や今地球上でどのような問題が起こっているのかについても焦点を充てる。</p> <p>(授業目標) ◎C：生物学の知識を使って、生命の本質や地球環境問題への思考力を身につける。 ○D：生物学の知識を理解し、生物学を系統立てて理解する。</p>		
授業計画	1	植物と動物 さまざまな生き物の特性を学ぶ。(発表)	
	2	ゴリラの生活と生態 ヒトとほとんどDNAに近いゴリラについて考える。	
	3	生命の起源と進化と古細菌 生命の起源や、進化の過程を理解する。 また、生命の故郷・海について考える。(グループ発表)	
	4	細胞 ミクロの世界の現象を考える。	
	5	生殖と遺伝 さまざまな生殖の特色を学ぶ。メンデルの法則や、遺伝について学ぶ。(グループ発表)	
	6	芝公園における植物観察(フィールドワーク) 校外実習(植物観察を行いレポートを提出する)	
	7	ヒトの体 ヒトの体の絶妙な仕組みについて学ぶ。(グループ発表)	
	8	五感(目・耳・舌・鼻・皮膚) 五感の働きについて理解する。	
	9	酸素と呼吸(有機物の分解) 嫌気呼吸と好気呼吸の仕組みについて理解する。(グループ発表)	
	10	光合成(有機物の生成) 有機物の生成について理解する。	
	11	血液とホルモン 体内環境と体液について学ぶ。(グループ発表)	
	12	脳(神経の働き) 刺激と受容や、神経系について学ぶ。	
	13	DNA DNAの構造や、DNAの複製を理解する。(グループ発表)	
	14	地球環境問題1 ヒトの寿命や、森林衰退について考える。	
	15	地球環境問題2 地球温暖化について考える。(グループ発表)	
学習成果・到達目標・基準	◎C：生物学の知識を使って、生命の本質や地球環境問題について考え実践することができる。 ○D：生物学の知識を理解し、生物学を系統立てて考えることができる。		
事前・事後学習	事前学習：テキストを読み関連のある箇所を読む(90分程度) 事後学習：テキストや配布されたプリントを復習する(90分程度)		
指導方法	テキストやプリントに従って授業を進める。また、パワーポイント等を使用して講義を進める。 フィードバックの仕方：数回小レポートにて理解度を確認し、返却時に指導する。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：生物の知識を使って、生命の本質の理解について定期試験で評価する。 D：生物学を系統立てて考えられるかを定期試験で評価する。 定期試験80%、受講態度20%		
テキスト	『視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録』数研出版編集部編(数研出版)		
参考書			
履修上の注意	授業を欠席する場合、理由を明記して欠席届の提出を行うようにする。		
アクティブ・ラー	個人の発表や、グループ発表がある。また、フィールドワークがある。		

ニング	
ICT・オープン エデュケーション の活用	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
西岡健自、別宮玲、福田博志、小山洋行、布施梓、釣井義朗			
Subject Code : G14A19			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 現代社会においては、あらゆる職業においてPCとネットの活用が求められていると言っても過言ではない。本授業ではメール、インターネット、キーボードタイピング、ワープロ、表計算といった一般的に社会人に必要とされている技術を初歩から学ぶ。 文書作成・表計算・プレゼンテーションソフトの基本操作だけではなく、昨今多発しているコンピューター犯罪や炎上事件などのインターネットに関するトラブルから身を守る為の術を身につけることも本授業の目的である。 (授業目標) ○D：社会におけるコンピューターやネットワークに関する諸問題を理解し、その回避方法・解決方法を説明できる。 ◎E：PCを使用して自分の考えをまとめ、適切なアプリケーションを使用しドキュメント化することができる。
授業計画	1 ガイダンス ・本授業概要と他の科目との関係について ・情報資格解説 ・情報セキュリティ動画視聴「あなたのパスワード大丈夫？」 2 本学の情報システム：学生用情報システムの設定確認と基本操作を学ぶ ・学生用PC、Gメール、アクティブポータル、WebClass等の設定と操作 ・情報セキュリティ動画視聴「あなたの書き込みは世界中でみられている」 3 PC基本操作：OS操作を中心にPCの基本操作と用語を学ぶ ・アプリの起動とファイル(メモ帳、ペイント、Word、Excel、PowerPoint)の新規作成 ・エクスプローラーによるファイル操作とフォルダ管理 ・キーボードタイピング ・PC、タブレット、スマホなど情報機器の用途や用語の学習 ・情報セキュリティ動画視聴「スマートフォン乗っ取り(デモ)」 4 文書作成ソフトの学習(1)：Wordの基本操作を学ぶ(WebClass:課題提出とフィードバック) ・新規作成 ・配置の設定 ・フォントの設定 ・段落番号と箇条書き ・文字数と行のカウント ・保存 ・情報セキュリティ動画視聴「その警告メッセージ、信じて大丈夫」 5 文書作成ソフトの学習(2)：Wordの基本操作を学ぶ(WebClass:課題提出とフィードバック) ・画像の挿入 ・SmartArtグラフィック ・表の作成 ・他のアプリのオブジェクトを貼り付ける ・情報セキュリティ動画視聴「乗っ取りの危険性があなたのスマホに」 6 文書作成ソフトの学習(3)：Wordの基本操作を学ぶ(WebClass:課題提出とフィードバック) ・図表番号の設定 ・ページ罫線 ・ワードアート ・段組み ・タブとリーダー ・PDFファイルとして保存 ・Word演習問題 ・情報セキュリティ動画視聴「ネットの危ない罠、出会い系サイト」 7 表計算ソフトの学習(1)：Excelの基本操作を学ぶ(WebClass:課題提出とフィードバック) ・新規作成 ・データの入力 ・保存 ・罫線の設定 ・数式の入力 ・関数の入力 ・情報セキュリティ動画視聴「ネットの危ない罠、ネットショッピング」 8 表計算ソフトの学習(2)：Excelの基本操作を学ぶ(WebClass:課題提出とフィードバック) ・表示形式の設定 ・列幅の変更 ・書式のコピー ・情報セキュリティ動画視聴「ネットの危ない罠、SNS」 9 表計算ソフトの学習(3)：Excelの基本操作を学ぶ(WebClass:課題提出とフィードバック) ・Excelによる情報分析 ・グラフの活用 ・Excel演習問題 ・情報セキュリティ動画視聴「大丈夫、あなたのスマートフォン」 10 プレゼンテーションソフトの学習(1)：PowerPointの基本操作を学ぶ(WebClass:課題提出と

	<p>フィードバック)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規作成 ・テーマの適用 ・プレースホルダー ・箇条書きテキスト ・スライドの実行 ・情報セキュリティ動画視聴「ネットの危ない罠、ワンクリック詐欺」 <p>11 プレゼンテーションソフトの学習(2) : PowerPointの基本操作を学ぶ(WebClass:課題提出とフィードバック)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オブジェクトの挿入 ・スライドの構成の変更 ・画面切り替え効果の設定 ・アニメーションの設定 ・情報セキュリティ動画視聴「あなたのスマートフォン、ウイルスが狙っている」 <p>12 プレゼンテーションソフトの学習(3) : PowerPointの基本操作を学ぶ(WebClass:課題提出とフィードバック)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの流れ ・PowerPoint演習問題 ・情報セキュリティ動画視聴「スマートフォンのワンクリック請求」 <p>13 総合演習(1) (WebClass:課題提出とフィードバック)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマを決め各自プレゼンテーションスライドを作成 ・情報セキュリティ動画視聴「デモで知る標的型攻撃による乗っ取り」 <p>14 総合演習(2) (WebClass:課題提出とフィードバック)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマを決め各自プレゼンテーションスライドを作成 ・情報セキュリティ動画視聴「陽だまり家族とパスワード」 <p>15 総合演習(3) (プレゼンテーション:受講者全員がプレゼンテーションを行う)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自がテーマに沿って作成したスライドを用いたプレゼンテーション
学習成果・到達目標・基準	<p>○D : コンピューター犯罪や炎上事件などのネットに関するトラブルの例を説明できる。</p> <p>◎E : Word、Excel、PowerPointを用いた基本的な文書や表計算の作成、プレゼンテーションの作成や操作ができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習 : シラバスを参考に、次回使用するアプリケーションについて各自学習する。(20分)</p> <p>日々のニュース、特にネットワークやセキュリティに関する情報をチェックする。(20分)</p> <p>事後学習 : 課題演習の多い授業である。苦手なアプリケーションの操作は次回までに克服するよう各自学習する。(20分)</p>
指導方法	<p>パソコンを操作する演習が中心だが、必要に応じて講義を中心とした回も織り交ぜて進める。</p> <p>文書作成はMS-Word、表計算はMS-Excel、プレゼンテーションはMS-PowerPointによる制作作業を行う。</p> <p>課題の提出はWebClassを利用する。課題の採点結果や再提出の指示などのフィードバックもWebClassで行う。</p> <p>また、WebClassの利用方法についても本授業内で学習する。</p> <p>毎週の授業内容に加え、セキュリティに関する講義(オープンエデュケーション利用)とタイピング練習も随時行われる。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>D : 授業内での質問と回答、小テストで評価する。</p> <p>E : Word、Excel、PowerPointによる制作課題を評価する。</p> <p>受講態度30%、課題提出40%、最終課題30%</p>
テキスト	情報リテラシー入門編(改訂版) (Windows10、Office2016) (FOM出版)
参考書	
履修上の注意	2週にわたって取り組む演習問題が複数存在する。1回でも欠席すると、その後ついていくのが大変なため、休んだ回の課題は教員に確認し、次回出席までに終わらせておくこと。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	<p>WebClass</p> <p>また情報セキュリティに関する教材については、オープンな教育リソースである以下2サイトの教育コンテンツを使用する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報処理推進機構「映像で知る情報セキュリティ」 ・神奈川県公式サイト「かなチャンTV 動画で見る神奈川(消費者向けチャンネル)」

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
福田博志			
Subject Code：G14C20	実務家教員による授業		

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) PCを用いた文書作成スキルはあらゆる職業で必要されるといっても過言ではないだろう。また学生生活においてレポート課題など文書作成を求められる場面も非常に多い。本授業ではMicrosoft Office Specialist (MOS) 検定の「Microsoft Office Word 2016」の出題範囲にそって文書作成のためのアプリケーションであるWordの機能を学習する。また、試験に合格するコツや、テクニックなどについても学習する。 (授業目標) ◎E：文書の作成と管理について、MOS Word 合格相当のPCの操作ができる。 ◎E：文書内に書式やページレイアウトを設定し、表、グラフィックや参考資料を挿入し管理する方法について、MOS Word 合格相当のPCの操作ができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス 授業目標および授業内容の説明 成績評価方法の説明 MOSの概要説明 演習環境に関する説明</p> <p>2 文書の作成と管理（1）：（実習：PCによる演習） 文書を作成する 文書内を移動する</p> <p>3 文書の作成と管理（2）：（実習：PCによる演習） 文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする</p> <p>4 文書の作成と管理（3）・文字、段落、セクションの書式設定（1）：（実習：PCによる演習） 文書を印刷する、保存する 「文書の作成と管理」確認問題を実施し標準解答を確認する 文字列や段落を挿入する 文字列や段落の書式を設定する</p> <p>5 文字、段落、セクションの書式設定（2）・表の作成：（実習：PCによる演習） 文字列や段落を並べ替える、グループ化する 「文字、段落、セクションの書式設定」確認問題を実施し標準解答を確認する 表を作成する 表を変更する</p> <p>6 リストの作成・参考資料の作成と管理（1）：（実習：PCによる演習） リストを作成する リストを変更する 「表とリストの作成」確認問題を実施し標準解答を確認する 参照のための情報や記号を作成する、管理する</p> <p>7 参考資料の作成と管理（2）・グラフィック要素の挿入と書式設定（1）：（実習：PCによる演習） 標準の参考資料を作成する、管理する 「参考資料の作成と管理」確認問題を実施し標準解答を確認する グラフィック要素を挿入する グラフィック要素を書式設定する</p> <p>8 グラフィック要素の挿入と書式設定（2）：（実習：PCによる演習） SmartArt を挿入する、書式設定する 「グラフィック要素の挿入と書式設定」確認問題を実施し標準解答を確認する MOS 2016の試験形式 MOS 2016の画面構成と試験環境 MOS 2016の攻略ポイント</p> <p>9 MOS 2016攻略ポイントおよび模擬試験プログラムの使い方：（実習：PCによる演習） MOS 2016の試験形式、画面構成と試験環境の説明 模擬試験プログラムの起動方法および学習方法の説明 模擬試験実施時のトラブル対策と注意事項の説明</p> <p>10 第1回試験対策講座：（実習：PCによる演習） 第1回模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う</p> <p>11 第2回試験対策講座：（実習：PCによる演習） 第2回模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う</p> <p>12 第3回試験対策講座：（実習：PCによる演習） 第3回模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う</p> <p>13 第4回試験対策講座：（実習：PCによる演習） 第4回模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う</p> <p>14 第5回試験対策講座：（実習：PCによる演習） 第5回模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う</p> <p>15 第6回試験対策講座：（実習：PCによる演習）</p>

	ランダム問題による模擬試験を実施する
学習成果・到達目標・基準	◎E：基本的な文書の作成および管理ができる。 ◎E：文書内に書式やページレイアウトを設定し、表、グラフィックや参考資料を挿入するための基本的な操作ができる。
事前・事後学習	事前学習：6回MOS模擬試験は、出題範囲が事前に明確になっているため、十分な事前学習による高得点の獲得を期待する。(90分) 事後学習：各講義内容で十分に理解できなかった操作、模擬試験で正答できなかった問題は事後学習で各自補完すること。(60分)
指導方法	パソコンを操作する実習が中心である。前半は講師と共に行う操作練習、後半は個別演習形式で進める。また授業終盤ではMOSの模擬試験による実践演習を行い、試験結果の課題に対し、個別で取り組み、質疑応答を行う。 フィードバックの仕方：課題に関しては、授業後、直接個別対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：PCを利用したMOSの模擬試験で文書の作成および管理に関する操作の評価を行う。 E：PCを利用したMOSの模擬試験で書式、ページレイアウトの設定、表、グラフィック、参考資料の挿入に関する操作の評価を行う。 またMOS合格者は評価を原則1段階アップさせる。 (本来A評価の者をS評価に、B評価の者はA評価にアップ。元々S評価の者はそのままS評価の成績となる) 受講態度30%、総合演習70%の割合で成績評価を行う。
テキスト	よくわかるマスターMicrosoft Office Specialist Microsoft Word 2016 対策テキスト& 問題集 FOM出版
参考書	
履修上の注意	他のMOS資格(Excel、PowerPoint)の受験も視野に、計画的な学習をすること。 また、授業に際し、テキストは必携である。 「情報リテラシー」履修済みか、同等以上のコンピュータ操作技能があることが履修の前提となる。
アクティブ・ラーニング	実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	デジタル教材による模擬試験

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
井上香緒里、江原和彦			
Subject Code : G14C21			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) プレゼンテーションソフトは事務職のみならず様々な職業で使用する機会がある。 本授業ではMicrosoft Office Specialist (MOS) 検定の「Microsoft Office PowerPoint 2016」の出題範囲にそってプレゼンテーションソフトPowerPointの機能を勉強する。 また、MOS試験に合格するコツや、テクニックなどについても学習する。 (授業目標) ◎E：スライドの作成・操作、グラフィックやマルチメディアの挿入、グラフや表の作成、アニメーション設定について、MOS PowerPoint 合格相当のPCの操作ができる。MOS試験に挑戦して合格する。		
授業計画	1	ガイダンス/プレゼンテーションの作成と管理（1） ・学習の進め方 MOS PowerPoint 2016の出題範囲の説明 1-1-1 新しいプレゼンテーションを作成する 1-1-2 テンプレートをもとにしてプレゼンテーションを作成する 1-1-3 Wordのアウトラインをインポートする 1-2-1 特定のスライドのレイアウトを挿入する 1-2-2 スライドに別のレイアウトを適用する	
	2	プレゼンテーションの作成と管理（2） 1-2-3 既存のスライドを複製する 1-2-4 スライドを表示する、非表示にする 1-2-5 スライドを削除する 1-2-6 個々のスライドの背景を変更する 1-2-7 スライドのヘッダー、フッター、ページ番号を挿入する 1-3-1 スライドの順番を移動する 1-3-2 セクションを作成する 1-3-3 セクション名を変更する 1-3-4 セクションの順番を変更する	
	3	プレゼンテーションの作成と管理（3） 1-4-1 スライドのサイズを変更する 1-4-2 プレゼンテーションの表示を変更する 1-4-3 ファイルのプロパティを設定する 1-5-1 プレゼンテーションの全体または一部を印刷する 1-5-2 ノートや配布資料を印刷する 1-5-3 カラー、グレースケール、白黒で印刷する	
	4	プレゼンテーションの作成と管理（4） 1-6-1 目的別スライドショーを作成する 1-6-2 スライドショーのリハーサル機能を使用する 1-6-3 スライドショーのオプションを設定する 1-6-4 発表者ツールを使用してスライドショーを発表する 1-7-1 スライドのレイアウトを変更する 1-7-2 スライドマスターのテーマや背景を変更する 1-7-3 スライドのレイアウトを作成する 1-7-4 スライドマスターのコンテンツを変更する 1-7-5 配布資料マスターを変更する 1-7-6 ノートマスターを変更する	
	5	テキスト、図形、画像の挿入と書式設定（1） 2-1-1 スライドにテキストを挿入する 2-1-2 テキストに書式やスタイルを適用する 2-1-3 箇条書きや段落番号を作成する 2-1-4 テキストに段組みを設定する 2-1-5 テキストにワードアートのスタイルを適用する 2-1-6 ハイパーリンクを挿入する	
	6	テキスト、図形、画像の挿入と書式設定（2） 2-2-1 図を挿入する 2-2-2 図のサイズを変更する、図をトリミングする 2-2-3 図のスタイルや効果を適用する 2-3-1 図形を挿入する、置き換える 2-3-2 テキストボックスを挿入する 2-3-3 図形やテキストボックスのサイズを変更する 2-3-4 図形やテキストボックスにスタイルを適用する 2-3-5 図形やテキストボックスの書式を設定する 2-4-1 オブジェクトを並べ替える 2-4-2 オブジェクトを配置する 2-4-3 オブジェクトをグループ化する 2-4-4 配置用のツールを表示する	
	7	表、グラフ、SmartArt、メディアの挿入（1） 3-1-1 表を作成する 3-1-2 表に行や列を挿入する、削除する	

	<p>3-1-3 表のスタイルを適用する 3-1-4 表をインポートする 表、グラフ、SmartArt、メディアの挿入（2） 3-2-1 グラフを作成する 3-2-2 グラフの種類を変更する 3-2-3 グラフのスタイルを変更する 3-2-4 グラフに凡例を追加する 3-2-5 グラフをインポートする</p> <p>9 表、グラフ、SmartArt、メディアの挿入（3） 3-3-1 SmartArtを作成する 3-3-2 箇条書きをSmartArtに変換する 3-3-3 SmartArtに図形を追加する 3-3-4 SmartArtの中で図形を並べ替える 3-3-5 SmartArtの色を変更する 3-4-1 サウンドやビデオを挿入する 3-4-2 メディアのウィンドウサイズを調整する 3-4-3 メディアのタイミングのオプションを設定する 3-4-4 メディアの再生オプションを設定する 3-4-5 ビデオの開始時間と終了時間を設定する</p> <p>10 画面切り替えやアニメーションの適用 4-1-1 画面切り替えを挿入する 4-1-2 画面切り替えの効果のオプションを設定する 4-2-1 文字やオブジェクトにアニメーションを適用する 4-2-2 アニメーションの効果のオプションを設定する 4-2-3 アニメーションの軌跡効果を設定する 4-3-1 画面切り替えの効果のタイミングを設定する 4-3-2 アニメーションの開始と終了のオプションを設定する 4-3-3 同じスライドにあるアニメーションの順序を並べ替える</p> <p>11 複数のプレゼンテーションの管理（1） 5-1-1 ほかのプレゼンテーションからスライドを挿入する 5-1-2 2つのプレゼンテーションを比較する 5-1-3 コメントを挿入する 5-1-4 コメントをレビューする 5-2-1 プレゼンテーションの校正を行う</p> <p>12 複数のプレゼンテーションの管理（2） 5-2-2 プレゼンテーションを検査する 5-2-3 プレゼンテーションを保護する 5-2-4 プレゼンテーションの内容を保持する 5-2-5 プレゼンテーションを別の形式にエクスポートする</p> <p>13 試験対策講座（1）（デジタル教材による模擬試験） ・ 模擬試験プログラムの使い方 ・ MOS 2016の試験形式や攻略ポイントの説明</p> <p>14 試験対策講座（2）（デジタル教材による模擬試験） ・ 模擬試験の実施とポイント解説</p> <p>15 試験対策講座（3）（デジタル教材による模擬試験） ・ 模擬試験の実施とポイント解説 ・ 最終課題の実施</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：PowerPointを使用して、基本的なスライド作成・操作、グラフィックの挿入、表の作成をし、スライドショーを実行できる。
事前・事後学習	事前学習：試験対策講座で複数回にわたって最終課題を行う。最終課題の内容はMOSの模擬試験問題に準ずるものとなっている。出題範囲は事前に明確になっているため、試験対策講座の授業回を待たず、十分な事前学習による高得点の獲得を期待する。なお授業計画内の1-2-2などの表記はテキストの章番号である。事前学習の参考にすること。(15分) 事後学習：授業内で正答できなかった問題は事後学習で各自補完する。自己解決が困難な場合、メディアセンターアネックスを活用すると良い。(30分)
指導方法	パソコンを操作する実習が中心である。90分の授業の前半60分でテキストに沿って操作の解説と実習を行い、後半の30分でその日に学習した内容の理解度を測る練習問題の実習と提出を行う。授業の終盤では、デジタル教材によるMOSの模擬試験を用いた実践演習を行う。 フィードバックの方法：模擬試験は実施の都度授業内で採点し、アドバイスをを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：最終課題で評価を行う。またMOS合格者は最終課題の評価を原則1段階アップさせる。 (MOS合格者は本来A評価の者をS評価に、B評価の者はA評価にアップ。元々S評価の者はそのままS評価の成績となる) 受講態度30%、最終課題70%の割合で成績評価を行う。
テキスト	よくわかるマスターMicrosoft Office Specialist Microsoft PowerPoint 2016 対策テキスト& 問題集 (FOM出版)
参考書	
履修上の注意	「情報リテラシー」履修済みか、同等以上のコンピュータ操作技能があることが履修の前提条件となる。 MOS試験の受験は必須ではないが、積極的に受験することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	
ICT・オープンエデュケーションの活用	デジタル教材による模擬試験

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
布施梓、江原和彦			
Subject Code：1年生G14C22		Subject Code：2年生G14C22	

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>(授業概要)</p> <p>表計算ソフトを使用する職業は非常に多く、その操作スキルは社会で求められるものである。本授業ではMicrosoft Office Specialist (MOS) 検定の「Microsoft Office Excel 2016」の出題範囲にそってExcelの機能を学習する。</p> <p>また、試験に合格するコツや、テクニックなどについても学習する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎E：ワークシートの操作、数式や関数の操作、グラフや図の挿入・編集、データ分析について、MOS Excel合格相当のPCの操作ができる。</p>		
授業計画	1	<p>ガイダンス/ワークシートやブックの作成と管理（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MOS Excel 2016の出題範囲の説明 1-1-1 ブックを作成する 1-1-2 区切り文字で区切られたデータをテキストファイルからインポートする 1-1-3 ワークシート名を変更する 1-1-4 既存のブックにワークシートを追加する 1-1-5 ワークシートをコピーする、移動する 	
	2	<p>ワークシートやブックの作成と管理（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> 1-2-1 ブック内のデータを検索する 1-2-2 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する 1-2-3 ハイパーリンクを挿入する、削除する 1-3-1 ワークシートの見出しの色を変更する 1-3-2 ページ設定を変更する 1-3-3 ブックのテーマを変更する 1-3-4 ヘッダーやフッターを挿入する 1-3-5 列や行を挿入する、削除する 1-3-6 列の幅や行の高さを調整する 	
	3	<p>ワークシートやブックの作成と管理（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> 1-4-1 ブックの表示を変更する 1-4-2 ズーム機能を使用して表示倍率を変更する 1-4-3 数式を表示する 1-4-4 列や行を表示する、非表示にする 1-4-5 ワークシートを表示する、非表示にする 1-4-6 ウィンドウの表示を変更する 	
	4	<p>ワークシートやブックの作成と管理（4）</p> <ul style="list-style-type: none"> 1-4-7 ドキュメントプロパティを変更する 1-4-8 クイックアクセスツールバーをカスタマイズする 1-5-1 ブック全体またはブックの一部を印刷する 1-5-2 印刷範囲を設定する 1-5-3 拡大縮小印刷を設定する 1-5-4 複数ページのワークシートに列タイトルと行タイトルを繰り返し表示する 1-5-5 別のファイル形式でブックを保存する 1-5-6 ブック内の非表示のプロパティや個人情報を検査する 	
	5	<p>ワークシートやブックの作成と管理（5）/セルやセル範囲のデータの管理（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> 1-5-7 ブック内のアクセシビリティの問題を検査する 1-5-8 ブック内の互換性の問題を検査する 2-1-1 オートフィル機能を使ってセルにデータを入力する 2-1-2 データを切り取る、コピーする、貼り付ける 2-1-3 形式を選択してデータを貼り付ける 2-1-4 セルを挿入する、削除する 2-1-5 データを置換する 	
	6	<p>セルやセル範囲のデータの管理（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> 2-2-1 セルの書式を適用する 2-2-2 セルの配置やインデントを変更する 2-2-3 セル内の文字列を折り返して表示する 2-2-4 セルを結合する 2-2-5 数値の書式を適用する 2-2-6 セルのスタイルを適用する 2-2-7 書式のコピー/貼り付け機能を使用してセルに書式を設定する 	
	7	<p>セルやセル範囲のデータの管理（3）/テーブルの作成（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> 2-3-1 スパークラインを挿入する 2-3-2 データのアウトラインを作成する 2-3-3 小計を挿入する 2-3-4 条件付き書式を適用する 3-1-1 セル範囲からテーブルを作成する 3-1-2 テーブルに行や列を追加する、削除する 3-1-3 テーブルをセル範囲に変換する 	

	8	<p>テーブルの作成（2）</p> <p>3-2-1 テーブルにスタイルを適用する</p> <p>3-2-2 テーブルスタイルのオプションを設定する</p> <p>3-2-3 テーブルに集計行を挿入する</p> <p>3-3-1 データを並べ替える</p> <p>3-3-2 複数の列でデータを並べ替える</p> <p>3-3-3 レコードを抽出する</p> <p>3-3-4 重複レコードを削除する</p>
	9	<p>数式や関数を使用した演算の実行（1）</p> <p>4-1-1 セル参照を追加する</p> <p>4-1-2 SUM関数を使用して計算を行う</p> <p>4-1-3 AVERAGE関数を使用して計算を行う</p> <p>4-1-4 MIN、MAX関数を使用して計算を行う</p> <p>4-1-5 COUNT関数を使用して計算を行う</p> <p>4-2-1 IF関数を使用して論理演算を実行する</p>
	10	<p>数式や関数を使用した演算の実行（2）</p> <p>4-2-2 SUMIF関数を使用して論理演算を実行する</p> <p>4-2-3 AVERAGEIF関数を使用して論理演算を実行する</p> <p>4-2-4 COUNTIF関数を使用して統計的演算を実行する</p> <p>4-3-1 RIGHT、LEFT、MID関数を使用して文字の書式を設定する</p> <p>4-3-2 UPPER、LOWER、PROPER関数を使用して文字の書式を設定する</p> <p>4-3-3 CONCATENATE関数を使用して文字の書式を設定する</p>
	11	<p>グラフやオブジェクトの作成（1）</p> <p>5-1-1 新しいグラフを作成する</p> <p>5-1-2 データ範囲の行と列を切り替える</p> <p>5-1-3 データ範囲（系列）を追加する</p> <p>5-1-4 クイック分析を使用してデータを分析する</p> <p>5-2-1 グラフのサイズを変更する</p> <p>5-2-2 グラフのレイアウトやスタイルを適用する</p> <p>5-2-3 グラフの要素を追加する、変更する</p> <p>5-2-4 グラフをグラフシートに移動する</p>
	12	<p>グラフやオブジェクトの作成（2）</p> <p>5-3-1 テキストボックスや図形を挿入する</p> <p>5-3-2 画像を挿入する</p> <p>5-3-3 オブジェクトのプロパティを変更する</p> <p>5-3-4 アクセシビリティ向上のため、オブジェクトに代替テキストを追加する</p>
	13	<p>試験対策講座（1）（ICT：デジタル教材による模擬試験）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験プログラムの使い方 ・MOS 2016の試験形式や攻略ポイントの説明
	14	<p>試験対策講座（2）（ICT：デジタル教材による模擬試験）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回模擬試験の実施とポイント解説
	15	<p>試験対策講座（3）（ICT：デジタル教材による模擬試験）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回模擬試験の実施とポイント解説
学習成果・到達目標・基準	◎E：Excelを使用して、基本的なワークシートの操作、数式や関数の操作、グラフや図の挿入ができる。	
事前・事後学習	<p>事前学習：試験対策講座で複数回にわたって最終課題を行う。最終課題の内容はMOSの模擬試験問題に準ずるものとなっている。出題範囲は事前に明確になっているため、試験対策講座の授業回を待たず、十分な事前学習による高得点の獲得を期待する。なお授業計画内の1-2-2などの表記はテキストの章番号である。事前学習の参考にすること。（30分）</p> <p>事後学習：授業内で正答できなかった問題は事後学習で各自補完する。自己解決が困難な場合、メディアセンターアネックスを活用すると良い。（30分）</p>	
指導方法	<p>パソコンを操作する実習が中心である。前半は講師と共に行う操作練習、後半は個別演習形式で進める。また授業終盤ではデジタル教材によるMOSの模擬試験を用いた実践演習を行う。</p> <p>フィードバックの方法：模擬試験は実施の都度授業内で採点し、アドバイスをを行う。</p>	
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>E：最終課題で評価を行う。またMOS合格者は評価を原則1段階アップさせる。（MOS合格者は本来A評価の者をS評価に、B評価の者はA評価にアップ。元々S評価の者はそのままS評価の成績となる）</p> <p>受講態度30%、課題及び最終課題70%の割合で成績評価を行う。</p>	
テキスト	よくわかるマスターMicrosoft Office Specialist Microsoft Excel 2016 対策テキスト& 問題集（FOM出版）	
参考書		
履修上の注意	「情報リテラシー」履修済みか、同等以上のコンピュータ操作技能があることが履修の前提となる。	
アクティブ・ラーニング		
ICT・オープンエデュケーションの活用	デジタル教材による模擬試験	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1	1	総合：選択
担当教員			
高橋佳子			
Subject Code : G15C23			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 運動を通して、日常生活に必要な基礎体力をつける習慣を身につけるために、ストレッチとエクササイズを継続して実施し、自身の体調の変化に気がつくようにする。 他者と協働することの意義や楽しさを体得できるよう、球技種目（ドッジボール、バレーボール、バドミントン、卓球、ニュースポーツ）の基礎技術を取得し、ゲームを行う。 (授業目標) ◎A：ゲーム実施の際、自身の役割を理解し、チームに貢献することで責任感を養うことができる。 ○E：球技種目（ドッジボール、バレーボール、バドミントン、卓球、ニュースポーツ）の基礎技術を修得することができる。
授業計画	1 ガイダンス（グループワーク：相互インタビューによる他己紹介） 目的、授業における留意点、評価方法の説明、相互インタビューによる他己紹介 2 球技①（実習：ドッジボール） ストレッチ、ドッジボール 3 球技②（実習：ドッジビー） ストレッチ、ドッジビー 4 球技③（実習：ポートボール） ストレッチ、ポートボール 5 球技④基礎（実習：ソフトバレー） ストレッチ、ソフトバレーボール（基礎練習・ゲーム） 6 球技④応用（実習：バレーボール） ストレッチ、バレーボール（ゲーム） 7 球技⑤基礎（実習：インディアカ） ストレッチ、インディアカ 8 球技⑥基礎（実習：バドミントン） ストレッチ、バドミントン（基礎練習・ゲーム） 9 球技⑥応用（実習：バドミントン） ストレッチ、バドミントン（ゲーム） 10 球技⑦（実習：キンボール） ストレッチ、キンボール 11 球技⑧（実習：ユニホック） ストレッチ、ユニホック 12 球技⑨（実習：ポッチャ） ストレッチ、ポッチャ 13 球技⑩基礎（実習：卓球） ストレッチ、卓球（基礎練習・ゲーム） 14 球技⑨応用（実習：卓球） ストレッチ、卓球（ゲーム） 15 球技⑩（実習：バウンドテニス） ストレッチ、バウンドテニス
学習成果・到達目標・基準	◎A：チーム内においての自身の役割を見つけ参加することができる。 ○E：ルールにのっとり、楽しくスポーツすることができる。
事前・事後学習	事前学習：次週の授業までに日常生活の中でスポーツに関するニュースや書籍に目を通すようにする。（30分程度） 事後学習：スポーツする楽しさと意義を感じ、日常生活の中にスポーツすることを取り込んでいくようにする。（30分程度）
指導方法	①準備運動としてストレッチやエクササイズを行い、その日の体調を確認する。 ②各々のスポーツ種目の基礎技術を練習し修得する。 ③ゲームのルールを説明した後、ゲームを行う。ゲームを楽しむ中で、スポーツを楽しむためには何が必要かを考えさせる。 フィードバックの仕方：実技と技能カードや感想用紙を総合的に評価し、授業時に返却する。質問があった場合には、個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：ゲーム中においてチームにおける貢献度と受講態度、また技能カードや感想用紙などの提出物に対する取り組みを評価する。 E：各種目における技能を評価する。 チームへの貢献度30%、受講態度30%、提出物10%、各種目における技能30%

テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	「深堀真由美のからだスッキリヨガプログラム」深堀真由美著 主婦の友社 「スタビライゼーション」小林敬和編著 ベースボールマガジン社
履修上の注意	①受講資格：健康診断（心電図も含む）において問題がないと認められた者。 ②体育館シューズ・ジャージ等、運動に適したものを各自で用意し、長爪やアクセサリ等は外すこと。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実習
I C T・オープンエデュケーションの活用	なし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1	1	総合：選択
担当教員			
高橋佳子			
Subject Code : G15C24			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 準備運動としてストレッチを実施する中で、心身をほぐす。リズムダンスの基礎的なステップを修得後、リズムに合わせて踊れるよう練習を実施する。修得した曲目の中から自身の課題曲を決定し、グループでフォーメーションの創作を実施し、人前で発表できるようにする。 (授業目標) ◎A：修得した曲の中からグループ創作を実施し、チームをまとめる力を身につけることができる。 ◎E：準備運動としてストレッチを行い、リズムダンスの基礎的なステップを修得することで個人の身体表現を磨き、リズムに乗って楽しく踊ることができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス（グループワーク：相互インタビューによる他己紹介） 目的、授業における留意点、評価方法の説明、相互インタビューによる他己紹介</p> <p>2 ストレッチ、ウォームアップ ストレッチ、リズムダンス（ウォームアップ）</p> <p>3 リズムダンス①（実習：リズムダンス） ストレッチ、リズムダンス（各種ステップ1） （ICT：WebClass）</p> <p>4 リズムダンス②（実習：リズムダンス） ストレッチ、リズムダンス（各種ステップ2） （ICT：WebClass）</p> <p>5 リズムダンス③前半（実習：リズムダンス） ストレッチ、リズムダンス（各種ステップ・フレーズ1）</p> <p>6 リズムダンス③後半（実習：リズムダンス） ストレッチ、リズムダンス（各種ステップ・フレーズ1仕上げ） （ICT：WebClass）</p> <p>7 リズムダンス④前半（実習：リズムダンス） ストレッチ、リズムダンス（各種ステップ・フレーズ2）</p> <p>8 リズムダンス④後半（実習：リズムダンス） ストレッチ、リズムダンス（各種ステップ・フレーズ2仕上げ） （ICT：WebClass）</p> <p>9 リズムダンス④踊り込み（実習：リズムダンス） ストレッチ、リズムダンス（各種ステップ・フレーズの踊り込み）</p> <p>10 グループ創作1（グループワーク：創作） ストレッチ、リズムダンス（創作1） （ICT：iPad）</p> <p>11 グループ創作2（グループワーク：創作） ストレッチ、リズムダンス（創作2） （ICT：iPad）</p> <p>12 グループ創作3（グループワーク：創作） ストレッチ、リズムダンス（創作3） （ICT：iPad）</p> <p>13 グループ創作4（グループワーク：創作） ストレッチ、リズムダンス（創作4） （ICT：iPad）</p> <p>14 創作ダンス発表 グループ創作した作品発表 （ICT：iPad）</p> <p>15 創作ダンス鑑賞 グループ創作した作品のVTR鑑賞</p>
学習成果・到達目標・基準	◎A：自身にあった課題曲を自分で選択し、創作活動に参加することができる。 ◎E：軽いエクササイズやストレッチ、リズムダンスに苦手意識を持たずに楽しみ参加することができる。
事前・事後学習	事前学習：自分自身の身体の変化に気がつけるようにチェックを行う。（30分程度） 事後学習：毎回導入として行うストレッチやマッサージの方法を覚え、日常生活でも実践していくようにする。（30分程度）
指導方法	①準備運動としてストレッチを行い、その日の体調を確認する。 ②ウォームアップを音楽に合わせて行い、リズムに合わせて動くたのしさを修得し、健康でしなやかな日常生活を送れるようにする。 ③リズムダンスを修得した後、グループ創作を行う。個人の身体表現を磨き、他者との身体コミュニケーションを行う意義について理解を深めさせる。 フィードバックの方法：iPadで動きや作品を撮影し、その動画を用いて改善していく。質問があった場合には、個別に対応する。

アセスメント・成績評価の方法・基準	A：グループ活動時の貢献度と受講態度、また提出物に対する取り組みを評価する。 E：個人技能を評価する。 グループへの貢献度30%、受講態度20%、提出物20%、個人技能30%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	「深堀真由美のからだスッキリヨガプログラム」深堀真由美著 主婦の友社 「プロフェッショナルピラーティス」アラン・ハードマン著 池田美紀訳 ガイアブックス 「ダンス解剖学」ジャッキー・グリーン・ハース著 武田淳也監訳 ベースボール・マガジン社
履修上の注意	①受講資格：健康診断(心電図も含む)において問題がないと認められた者。 ②体育館シューズ・ジャージ等、運動に適したものを各自で用意し、長爪やアクセサリー等は外すこと。
アクティブ・ラーニング	グループワーク：相互インタビューによる他己紹介、実習、創作
I C T・オープンエデュケーションの活用	グループワークの際、iPadで動きや作品を撮影 WebClassで振付見本動画を提示

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：選択
担当教員			
高橋佳子			
Subject Code : G15C25			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 八王子キャンパスのグラウンドや体育館を使用して様々なスポーツ種目の基礎技術を修得しゲームを実施する。ゲームを通して、自身にあった生涯スポーツを発見しながら健康・体力の維持・増進を図ることを目標とする。 実習期間：5日間(土曜日) 実習場所：八王子キャンパス (授業目標) ◎A：自身にあった運動をみつけ、参加することができる。 ○E：修得した基礎技術を使用してゲームに参加できる。
授業計画	1 体づくり(実習：体ほぐし) ストレッチ、体ほぐし、ドッジビー 2 生涯スポーツ①(実習：グラウンドゴルフ) グラウンドゴルフ(基礎練習) 3 生涯スポーツ②(実習：グラウンドゴルフ) グラウンドゴルフ(ゲーム) 4 体づくり(実習：エクササイズ) ストレッチ、エクササイズ、ドッジビー 5 ニューススポーツ①(実習：キンボール) キンボール(基礎練習) 6 ニューススポーツ②(実習：キンボール) キンボール(ゲーム) 7 体づくり(実習：エクササイズ) ストレッチ、エクササイズ、ドッジビー 8 ニューススポーツ③(実習：インディアカ) インディアカ(基礎練習) 9 ニューススポーツ④(実習：インディアカ) インディアカ(ゲーム) 10 体づくり(実習：エクササイズ) ストレッチ、エクササイズ、ドッジビー 11 ラケット種目①(実習：卓球) 卓球(基礎練習) 12 ラケット種目②(実習：卓球) 卓球(ゲーム) 13 体づくり(実習：エクササイズ) ストレッチ、エクササイズ、ドッジビー 14 球技①(実習：ポートボール) ポートボール(基礎練習) 15 球技②(実習：ポートボール) ポートボール(ゲーム)
学習成果・到達目標・基準	◎A：健康・体力の維持・増進を図る姿勢を身につけることができる。 ○E：種々のスポーツ種目の基礎技術を修得できる。
事前・事後学習	事前学習：今後の自身の生活に活かせるように「生涯スポーツ」について調べておく。(30分程度) 事後学習：日常生活の中にもスポーツを取り込んでいくようにする。(60分程度)
指導方法	①準備運動としてストレッチやエクササイズを行い、その日の体調を確認する。 ②各々のスポーツ種目の基礎技術を練習し修得する。 ③ゲームのルールを説明した後、ゲームを行う。ゲームを楽しむ中で、スポーツを楽しむために何が必要かを考えさせる。 フィードバックの仕方：実技と技能カードや感想用紙を総合的に評価し、授業時に返却する。質問があった場合には、個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：積極的にスポーツを実施しているか、チームへの貢献度、またスコア表や感想用紙など提出物への取り組み姿勢を評価する。 E：各種目における技能を評価する。 受講態度30%、チームにおける貢献度30%、提出物10%、各種目における技能30%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。

参考書	「スポーツの歴史と文化ースポーツ史を学ぶ」新井博、榊原浩晃著 道和書院 「深堀真由美のからだスッキリヨガプログラム」深堀真由美著 主婦の友社
履修上の注意	①受講資格：健康診断（心電図も含む）において問題がないと認められた者。 ②運動靴・ジャージ等、運動に適したものを各自で用意し、長爪やアクセサリ等ははずすこと。 ③事前に指定されたオリエンテーションに必ず参加すること。 ④実習期間：5日間(土曜日) 実習場所：八王子キャンパス
アクティブ・ラーニング	実習
I C T・オープンエデュケーションの活用	なし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
高橋佳子			
Subject Code : G15C26			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 八王子キャンパスのグラウンドや体育館を使用して様々なスポーツ種目の基礎技術を修得しゲームを実施する。ゲームを通して、自身にあった生涯スポーツを発見し楽しみながら健康・体力の維持・増進を図ることを目標とする。 実習期間：5日間(土曜日) 実習場所：八王子キャンパス (授業目標) ◎A：自身にあった運動をみつけることができる。 ○E：修得した基礎技術を使用してゲームに参加できる。
授業計画	1 体づくり(実習：体ほぐし) ストレッチ、体ほぐし、ドッジビー 2 生涯スポーツ種目①(実習：グラウンドゴルフ) グラウンドゴルフ(基礎練習) 3 生涯スポーツ種目②(実習：グラウンドゴルフ) グラウンドゴルフ(ゲーム) 4 体づくり(実習：エクササイズ) ストレッチ、エクササイズ、ドッジビー 5 ニュースポーツ①(実習：キンボール) キンボール(基礎練習) 6 ニュースポーツ②(実習：キンボール) キンボール(ゲーム) 7 体づくり(実習：エクササイズ) ストレッチ、エクササイズ、ドッジビー 8 ラケット種目①(実習：卓球) 卓球(基礎練習) 9 ラケット種目②(実習：卓球) 卓球(ゲーム) 10 体づくり(実習：エクササイズ) ストレッチ、エクササイズ、ドッジビー 11 ニュースポーツ③(実習：インディアカ) インディアカ(基礎練習) 12 ニュースポーツ④(実習：インディアカ) インディアカ(ゲーム) 13 体づくり(実習：エクササイズ) ストレッチ、エクササイズ、ドッジビー 14 球技①(実習：ポートボール) ポートボール(基礎練習) 15 球技②(実習：ポートボール) ポートボール(ゲーム)
学習成果・到達目標・基準	◎A：健康・体力の維持・増進を図る姿勢を身につけることができる。 ○E：様々なスポーツ種目の基礎技術を修得できる。
事前・事後学習	事前学習：今後の自身の生活に活かせるように「生涯スポーツ」について調べておく。(30分程度) 事後学習：日常生活の中にもスポーツを取り込んでいくようにする。(60分程度)
指導方法	①準備運動としてストレッチやエクササイズを行い、その日の体調を確認する。 ②各々のスポーツ種目の基礎技術を練習し修得する。 ③ゲームのルールを説明した後、ゲームを行う。ゲームを楽しむ中で、スポーツを楽しむために何が必要かを考えさせる。 フィードバックの仕方：実技と技能カードや感想用紙を総合的に評価し、授業時に返却する。質問があった場合には、個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：積極的にスポーツを実施しているか受講態度、チームにおける貢献度、スコア表や提出物への取り組み姿勢を評価する。 E：各種目における技能を評価する。 受講態度30%、チームにおける貢献度30%、提出物10%、各種目における技能30%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。

参考書	「スポーツの歴史と文化ースポーツ史を学ぶ」新井博、榊原浩晃著 道和書院 「深堀真由美のからだスッキリヨガプログラム」深堀真由美著 主婦の友社
履修上の注意	①受講資格：健康診断（心電図も含む）において問題がないと認められた者。 ②運動靴・ジャージ等、運動に適したものを各自で用意し、長爪やアクセサリ等ははずすこと。 ③事前に指定されたオリエンテーションに必ず参加すること。 ④実習期間：5日間(土曜日) 実習場所：八王子キャンパス
アクティブ・ラーニング	実習
I C T・オープンエデュケーションの活用	なし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
中村公子、玉川明日美、ELEC			
Subject Code : G16A27			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）をバランスよく身につけられるよう、Listening/Speakingをネイティブ講師から、Reading/Writingを日本人講師から学ぶ。RWでは、英文を正確に読み取るためのリーディングスキルと、自らの考えを伝えるためのライティング技法を学ぶ。LSでは、ビジネスシーンでのコミュニケーションが円滑に運ぶための表現やフレーズを学び、ロールプレイなどのアクティビティを通して身につける。すべての内容を通じて英語圏におけるものの考え方や文化的背景を知る。 (授業目標) ◎E：多角的なアプローチにより、バランスの取れた4技能の育成を図る。 ○D：グローバルな視点を身につける (Listening and Speaking Class) B：Understand and use a range of phrases to repair communication breakdowns and maintain smoother conversations. D：Understand and use vocabulary related to their particular area of study. (Reading and Writing Class) E・D：さまざまな国の観点から書かれた文章を読み、英語特有の表現パターンを身につける。
--	--

授業計画	1 Course Orientation, Basic English Review Listening and Speaking(LS): Course introduction and orientation / Classroom and survival English Reading and Writing(RW): Course orientation / Basic English Review (グループワーク)
	2 LS: Unit 1 Checking in (Textbook p4-6) / RW: Unit 1 Why Do We Wear Clothes?, Fabric LS: Greetings; Introductions RW: Clothes for important days / Silk (グループワーク / Web Class)
	3 LS: Unit 1 Checking in (Textbook p7-8,9; module 1.9) / RW: Unit 1 Why Do We Wear Clothes?, Fabrics LS: Reservations; Asking to Speak with Someone on the Phone RW: Clothes for every day / Looking good / Synthetic Fabrics (グループワーク / Web Class)
	4 LS: ESP① / RW: Unit 2 The History of Clothes, Fabrics LS: Garments, Colours RW: Making clothes / Wool (グループワーク / Web Class)
	5 LS:Unit 3 Schedules (Textbook p16-18) / RW: Unit 2 The History of Clothes, Fabrics LS: Meetings; Asking for and Telling the Time Vocabulary quiz, unit 1 RW: Unit 1 小テスト / Making fabrics / Cotton (グループワーク / Web Class)
	6 LS: Unit 3 Schedules (Textbook p19-20, 21; module 3.8) / RW: Unit 2 The History of Clothes, Fabrics LS: Making and Discussing Schedules; Arranging to Call Back RW: Modern clothes / Review of fabrics (グループワーク / Web Class)
	7 LS: ESP② / RW: Unit 3 The Language of Clothes LS: Fabric Types RW: Unit 2 小テスト/ Traditional costume (グループワーク / Web Class)
	8 LS: Unit 4: Companies (Textbook p22-24) / RW: Unit 3 The Language of Clothes LS: Introducing Companies; Countries and Nationalities Vocabulary quiz, unit 3 RW: Traditional costume (グループワーク / Web Class)
	9 LS: Unit 4: Companies(Textbook p25-27) / RW: Presentations LS: Giving Company Details; Confirming over the Phone; National Products RW: Unit 3 小テスト / Group presentations about clothes (グループワーク / プレゼンテーション)
	10 LS: ESP③ / RW: Presentations LS: Fabric Patterns RW: Group presentations about clothes (グループワーク / プレゼンテーション)
	11 LS: Review / RW: Unit 6 The Clothing Industry LS: Previous material from units 1, 3 and 4; Vocabulary quiz, unit 4

	<p>RW: Designers, Buyers, Factory workers, Sales clerks (グループワーク / Web Class)</p> <p>12 LS: Role-Play Preparation - Day 1 / RW: Unit 6 The Clothing Industry LS: Presentation preparation RW: The supply chain (グループワーク / Web Class)</p> <p>13 LS: Role-Play Preparation - Day 2 / RW: Unit 6 The Clothing Industry LS: Presentation preparation RW: Protecting factory workers / 動画視聴 (グループワーク / ディスカッション / Web Class)</p> <p>14 LS: Role-Play Presentations - Day 1 / RW: Unit 8 Crazy Clothes LS: Role-Play Presentations RW: Unit 6 小テスト, Fashions shows, Fashion victims (ロールプレイプレゼンテーション / グループワーク / Web Class)</p> <p>15 LS: Role-Play Presentations - Day 2, Course wrap-up / RW: Crazy Clothes LS: Role-Play Presentations RW: Street fashion (ロールプレイプレゼンテーション / グループワーク / Web Class)</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>◎E : 文章の内容を正しく理解することができる。英語らしい表現で自らの考えを表現することができる。 ○D : 英語圏の文化や考え方を知り、場面に適したコミュニケーションや表現の方法を身につける。</p> <p>(LS) B : Perform common communicative tasks, including using the telephone, making appointments, agreeing/disagreeing, and giving directions. D : Understand and use a variety of language to talk about themselves and their workplaces.</p> <p>(RW) E : スキミングやスキヤニング等のリーディング技法を用い、英文の主旨を正確に掴むことができる。 D : 語彙力を増やし、さまざまな表現を用いて、自らの考えを英語で伝えることができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習 (LS) Prepare for their presentations (writing and editing their scripts, practice reading their scripts out loud etc.). (約20分) (RW) 小テストに備えて学習する。発表等の準備を進める。(約20分)</p> <p>事後学習 (LS) Homework is required, and should be a review of target language studied in class. Towards the end of the semesters, students are expected to continue work on their presentations out of class. (約20分) (RW) テキストの内容に関連したワークや課題に取り組み、内容の定着を図る。(約20分)</p>
指導方法	<p>(LS) This course progresses in three-lesson cycles. In the first two lessons, students focus on general business English that can be used in a variety of contexts. In the third lesson of the cycle, students focus on vocabulary specific to their area to study. In these lessons, where possible, students practice using this specific vocabulary in previously studied situations. After each cycle, a vocabulary quiz is administered to assess language retention and encourage language review. (3レッスンを1ユニットとし、最初の2回でビジネス英語を、3回目では服飾関連業務におけるその具体的な活用を指導する)</p> <p>(RW) リーディングスキル(主旨の把握、文章構成の理解など)の育成を目標に、各種ワークやアクティビティを与えながら、楽しんで英文を読むことができるよう指導する。関連する映画や動画なども適宜取り入れる。また、テーマを与えて作文し、それを発表させる機会を持つことにより、英語での発信力も養えるよう指導する。</p> <p>フィードバックの方法: 発表・小テストの実施と、その解説及びコメントの返却</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>(LS) B : The students' speaking ability is measured through role-play presentations, and their listening ability is assessed via a listening test. (スピーキング力はロールプレイの発表で、リスニング力はテストから評価する) D : Language retention is assessed by vocabulary quiz. (語彙力は単語テストを基に評価する)</p> <p>Role-Play Presentation (ロールプレイ発表) 35% Listening Test (リスニングテスト) 25% Vocabulary Quizzes (単語テスト) 20% Participation (貢献度) 20%</p> <p>(RW) E : 各ユニットのワークや課題、定期テストで評価する。 D : 小テストや課題作文、発表等で評価する。 小テスト 20% 課題・提出物・貢献度 30% 定期試験 50%</p> <p>*最終的には、RW/LSそれぞれの評価を合わせて100%としたものを算出する。</p>
テキスト	<p>Business Venture Beginner Roger Barnard & Jeff Cady (2011) Oxford University Press Clothes Then and Now Richard Northcott (2018) Oxford University Press</p>
参考書	授業の際に指示する
履修上の注意	グローバル化の進む社会での基礎を作る授業です。積極的に取り組み英語での発信力を高めましょう。毎回辞書を用意すること。

アクティブ・ラーニング	グループワーク（LS 毎回 / RW 適宜） ロールプレイプレゼンテーション（LS 13-15週） プレゼンテーション（RW 9, 10週） ディスカッション（RW 適宜）
ICT・オープンエデュケーションの活用	ICT: Web Classで課題及び解答の提示、プレゼンテーション資料の提出

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
中村公子、玉川明日美、ELEC			
Subject Code : G16C28			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 読む・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく身につけられるよう、Listening/Speakingをネイティブ講師から、Reading/Writingを日本人講師から学ぶ。LSでは、ビジネスシーンでのコミュニケーションが円滑に運ぶための表現やフレーズを学び、ロールプレイなどのアクティビティを通して身につける。RWでは、英文を正確に読み取るためのリーディングスキルと、自らの考えを伝えるためのライティング技法を学ぶ。すべての内容を通して、英語圏におけるものの考え方や文化的背景を知る。 (授業目標) ◎E：多角的なアプローチにより、バランスの取れた4技能のスキルアップを図る。 ○D：グローバルな視点を身につける (Listening and Speaking Class) B：Understand and use a range of phrases to repair communication breakdowns and maintain smoother conversations. D：Understand and use vocabulary related to their particular area of study. (Reading and Writing Class) E・D：さまざまな国の観点から書かれた文章を読み、英語特有の発想や表現パターンを身につける。
授業計画	1 Listening and Speaking(LS): ESP Language Review from semester 1, Introduction / Reading and Writing(RW): Chapter 5 What do you think? LS: Review of Semester 1 / ESP Language RW: Personality color (グループワーク / Web Class) 2 LS: Unit 7 Work (Textbook p.40-42) / RW: Chapter 2 The Color of Culture LS: Jobs and Duties RW: Colors in China and Ireland / Chapter 1 小テスト (グループワーク) 3 LS: Unit 7 Work (Textbook p.43, 45) / RW: Chapter 2 The Color of Culture LS: Jobs and Duties (continued); Leaving a Message by Phone RW: Colors in India and other countries (グループワーク / Web Class) 4 LS: ESP④ / RW: Chapter 2 The color of culture LS: Garment Creation RW: Colors in Japan (グループワーク / Web Class) 5 LS: Unit 8 Appointments (Textbook p.46-48) / RW: Chapter 2 The Color of Culture LS: Meeting Times and Dates, Vocabulary quiz, unit 7 RW: Review of Colors and cultures (グループワーク / Web Class) 6 LS: Unit 8 Appointments (Textbook p.49-50, 51 module 8.8) / RW: Chapter 4 Celebration of color LS: Scheduling Meetings; Changing Arrangements by Phone RW: Celebrations in India / Chapter 2 小テスト (グループワーク) 7 LS: ESP⑤ / RW: Chapter 4 Celebration of color LS: Product Promotion and Marketing RW: Celebrations in China (グループワーク / Web Class) 8 LS: Unit 11 Requests and Offers (Textbook p.64-66) / RW: Chapter 4 Celebration of color LS: Making Polite Requests; Deadlines, Vocabulary quiz, unit 8 RW: Celebration in Mexico (グループワーク / Web Class) 9 LS: Unit 11 Requests and Offers (Textbook p.67-68, 69 module 11.7) / RW: Chapter 4 Celebration of color LS: Making Polite Offers; Making Requests by Phone RW: Celebration in Spain / Chapter 4 小テスト① (グループワーク) 10 LS: ESP⑥ / RW: Presentation LS: Fashion Displays RW: Presentations of colors and celebrations (グループワーク / プレゼンテーション / Web Class) 11 LS: Review / RW: Presentation LS: Previous material from units 7, 8 and 11; Vocabulary quiz, unit 11 RW: Presentations of colors and celebrations (グループワーク / プレゼンテーション / Web Class)

	12	LS: Role-Play Preparation-Day 1 / RW: The color of nature LS: Preparations for Role-Play Presentations RW: Rainbow, Uluru / Chapter 4 小テスト② (グループワーク / ロールプレイプレゼンテーション)
	13	LS: Role-Play Preparation-Day 2 / RW: The color of nature LS: Preparations for Role-Play Presentations RW: Rainbow, Uluru (グループワーク / ロールプレイプレゼンテーション / Web Class)
	14	LS: Role-Play Presentations-Day 1 / RW: The color of nature LS: Role-Play Presentations RW: The colors of nature in countries (グループワーク / プレゼンテーション / Web Class)
	15	LS: Role-Play Presentations-Day 2, Course wrap-up / RW: The color of nature, After reading activities LS: Role-Play Presentations RW: Review of The colors of nature in countries(グループワーク) / Chapter 3 小テスト② (グループワーク / プレゼンテーション)
学習成果・到達目標・基準	<p>◎E : 英文の内容を正しく理解できる。英語らしい表現で自らの考えを表すことができる。 ○D : 英語圏の文化や考え方を知り、場面に適したコミュニケーションの方法を実践できる。</p> <p>(LS) B : Perform common communicative tasks, including using the telephone, making appointments, agreeing/disagreeing, and giving directions. D : Understand and use a variety of language to talk about themselves and their workplaces.</p> <p>(RW) E : スキミングやスキニングなどのリーディング技法を用いて、英文の主旨を正確に掴むことができる。 D : 語彙力を増やし、さまざまな表現を用いて、自らの考えを英語で伝えることができる。</p>	
事前・事後学習	<p>事前学習 (LR) Prepare for their presentations (writing and editing their scripts, practice reading their scripts out loud etc.). (約20分) (RW) 小テストに備えて学習する。発表等の準備を進める。(約20分)</p> <p>事後学習 (LR) Homework is required, and should be a review of target language studied in class. Towards the end of the semesters, students are expected to continue work on their presentations out of class. (約20分) (RW) テキストの内容に関連したワークや課題に取り組む。(約20分)</p>	
指導方法	<p>(LR) This course progresses in three-lesson cycles. In the first two lessons, students focus on general business English that can be used in a variety of contexts. In the third lesson of the cycle, students focus on vocabulary specific to their area to study. In these lessons, where possible, students practice using this specific vocabulary in previously studied situations. After each cycle, a vocabulary quiz is administered to assess language retention and encourage language review. (3レッスンを1ユニットとし、最初の2回でビジネス英語を、3回目では服飾関連業務におけるその具体的な活用を指導する)</p> <p>(RW) リーディングスキル(主旨の把握、文章構成の理解など)の育成を目標に、各種ワークやアクティビティを与えながら、楽しんで英文を読むことができるよう指導する。関連する映画や各種動画なども適宜取り入れる。また、テーマを与えて作文し、それを発表させる機会をもつことで、英語での発信力も養えるよう指導する。</p> <p>フィードバックの方法: 発表・小テストの実施と、その解説及びコメントの返却</p>	
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>(LR) B : The students' speaking ability is measured through role-play presentations, and their listening ability is assessed via a listening test. (スピーキング力はロールプレイの発表で、リスニング力はテストから評価する) D : Language retention is assessed by vocabulary quiz. (語彙力は単語テストを基に評価する)</p> <p>Role-Play Presentation (ロールプレイ発表) 35% Listening Test (リスニングテスト) 25% Vocabulary Quizzes (単語テスト) 20% Participation (貢献度) 20%</p> <p>(RW) E : 各ユニットのワークや課題、定期テストで評価する。 D : 小テストや課題作文、発表等で評価する。 小テスト 20% 課題・提出物・貢献度 30% 定期試験 50%</p> <p>*最終的には、RW/LSそれぞれの評価を合わせて100%としたものを算出する。</p>	
テキスト	Business Venture beginner Roger Barnard & Jeff Cady (2011) Oxford University Press True Colors Diane Naughton(2014) Cambridge University Press	
参考書	授業の際に指示する	
履修上の注意	グローバル化の進む社会での基礎を作る授業です。積極的に取り組み英語での発信力を高めましょう。毎回辞書を用意すること。	
アクティブ・ラーニング	グループワーク (LS毎回 / RW適宜) プレゼンテーション (RW10, 11週)	

	ロールプレイプレゼンテーション（LS12-15週） ディスカッション（RW適宜）
ICT・オープン エデュケーション の活用	ICT: Web Classでの課題及び解答の提示。プレゼンテーション資料の作成及び提出。 テキスト附属のICT教材の実施

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
中村公子、ELEC			
Subject Code：G16A29			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 読む・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく身につけられるよう、Reading/Writingを日本人講師から、Listening/Speakingをネイティブ講師から学ぶ。RWでは、英文を正確に読み取るためのリーディングスキルと、自らの考えを伝えるためのライティング技法を学ぶ。LSでは、ビジネスシーンでのコミュニケーションが円滑に運ぶための表現やフレーズを学び、ロールプレイなどのアクティビティを通して身につける。すべての内容を通じて英語圏におけるものの考え方や文化的背景を知る。 (授業目標) ◎E：多角的なアプローチにより、バランスの取れた4技能のスキルアップを図る。 ○D：グローバルな視点を身につける (Listening and Speaking Class) B：Understand and use a range of phrases to repair communication breakdowns and maintain smoother conversations. D：Understand and use vocabulary related to their particular area of study. (Reading and Writing Class) E・D：さまざまな国の観点から書かれた文章を読み、英語特有の発想や表現パターンを身につける。
授業計画	1 Course Orientation, Basic English Review Listening and Speaking(LS): Course introduction and orientation / Classroom and survival English Reading and Writing(RW): Course introduction and orientation / Basic English Review (グループワーク) 2 LS:Unit 1:Checking in (Textbook p4-6) / RW: Unit 1 Food for life LS: Greetings; Introductions RW: Proteins / Carbohydrates (グループワーク / Web Class) 3 LS:Unit 1:Checking in (Textbook p7-8, 9 module 1.9) / RW: Unit 1 Food for life LS: Reservations; Asking to Speak with Someone on the Phone RW: Fats / Vitamins / Minerals (グループワーク / Web Class) 4 LS: ESP① / RW: Unit 1 Food for life LS: Food; Food Groups RW: Review of Nutrients (グループワーク / Web Class) 5 LS: Unit 3: Schedules (Textbook p16-18) / RW: Unit 3 Food origins LS: Meetings; Asking for and Telling the Time, Vocabulary quiz, unit 1 RW: Unit 1 小テスト / Popcorn, Chocolate (グループワーク) 6 LS: Unit 3: Schedules (Textbook p19-20, 21 module 3.8) / RW: Unit 3 Food origins LS: Making and Discussing Schedules; Arranging to Call Back RW: Ice Cream, Potato Chips (グループワーク / Web Class) 7 LS: ESP② / RW: Unit 3 Food origins LS: Food Preparation RW: Review of Food Origin (グループワーク / Web Class) 8 LS: Unit 4: Companies (Textbook p22-24) / RW: Unit 8 Giving thanks LS: Introducing Companies; Countries and Nationalities, Vocabulary quiz, unit 3 RW: Unit 3 小テスト / Thanksgiving in the U.S (グループワーク) 9 LS: Unit 4: Companies (Textbook p25-27) / RW: Unit 8 Giving thanks LS: Giving Company Details; Confirming over the Phone; National Products RW: Thanksgiving in Korea (グループワーク / Web Class) 10 LS: ESP③ / RW: Presentations LS: Weights and Measures RW: Presentation about celebration and food (グループワーク / プレゼンテーション / Web Class) 11 LS: Review / RW: Presentations LS: Previous material from units 1, 3 and 4; Vocabulary quiz, unit 4 RW: Unit 8 小テスト / Presentation about celebration and food (グループワーク / プレゼンテーション / Web Class) 12 LS: Role-Play Preparation - Day 1 / RW: Unit 4 Typical dishes LS: Preparation preparation RW: Typical dishes in Italy, Korea

	<p>(グループワーク / ロールプレイプレゼンテーション / Web Class)</p> <p>13 LS: Role-Play Preparation - Day 2 / RW: Unit 4 Typical dishes LS: Preparation preparation RW: Typical dishes in Mexico, and Morocco (グループワーク / ロールプレイプレゼンテーション / Web Class)</p> <p>14 LS: Role-Play Presentations - Day 1 / RW: Unit 6 Street Food LS: Presentations RW: Unit 4 小テスト / Street food in Brazil, Thailand (グループワーク / ロールプレイプレゼンテーション / Web Class)</p> <p>15 LS: Role-Play Presentations - Day 2 / course wrap-up / RW: Unit 6 Street Food LS: Presentations RW: Street food in Belgium, and Turkey (グループワーク / ロールプレイプレゼンテーション)</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>◎E : 英文の内容を正しく理解することができる。英語らしい表現で自らの考えを表すことができる。 ○D : 英語圏の文化や考え方を知り、場面に適したコミュニケーションの方法を身につける。</p> <p>(LS) B : Perform common communicative tasks, including using the telephone, making appointments, agreeing/disagreeing, and giving directions. D : Understand and use a variety of language to talk about themselves and their workplaces.</p> <p>(RW) E : スキミングやスキヤニングなどのリーディング技法を用いて、英文の主旨を正確に掴むことができる。 D : 語彙力を増やし、さまざまな表現を用いて、自らの考えを英語で伝えることができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習 (LR) Prepare for their presentations (writing and editing their scripts, practice reading their scripts out loud etc.). (約20分) (RW) 小テストに備えて学習する。発表等の準備を進める。(約20分)</p> <p>事後学習 (LR) Homework is required, and should be a review of target language studied in class. Towards the end of the semesters, students are expected to continue work on their presentations out of class. (約20分) (RW) テキストの内容に関連したワークや課題に取り組む。(約20分)</p>
指導方法	<p>(LR) This course progresses in three-lesson cycles. In the first two lessons, students focus on general business English that can be used in a variety of contexts. In the third lesson of the cycle, students focus on vocabulary specific to their area to study. In these lessons, where possible, students practice using this specific vocabulary in previously studied situations. After each cycle, a vocabulary quiz is administered to assess language retention and encourage language review. (3レッスンを1ユニットとし、最初の2回でビジネス英語を、3回目では食物関連事業におけるその具体的な活用を指導する)</p> <p>(RW) リーディングスキル(主旨の把握、文章構成など)の育成を目標に、各種ワークやアクティビティを与えながら、楽しんで英文を読むことができるよう指導する。関連する映画や動画なども適宜取り入れる。また、テーマを与えて作文し、それを発表させる機会をもつことで、英語での発信力も養えるよう指導する。</p> <p>フィードバックの方法: 発表・小テストの実施と、その解説及びコメントの返却</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>(LR) B : The students' speaking ability is measured through role-play presentations, and their listening ability is assessed via a listening test. (スピーキング力はロールプレイの発表で、リスニング力はテストで評価する) D : Language retention is assessed by vocabulary quiz. (語彙力は単語テストで評価する)</p> <p>Role-Play Presentation 35% Listening Test 25% Vocabulary Quizzes 20% Participation 20%</p> <p>(RW) E : 各ユニットのワークや課題、定期テストで評価する。 D : 小テストや課題作文、発表等で評価する。 小テスト 20% 課題・提出物・貢献度 30% 定期試験 50%</p> <p>*最終的には、RW/LSそれぞれの評価を合わせて100%としたものを算出する。</p>
テキスト	<p>Business Venture beginner Roger Barnard & Jeff Cady (2011) Oxford University Press Food Around the World Robert Quinn (2017) Oxford University Press</p>
参考書	授業の際に指示する
履修上の注意	グローバル化の進む社会での基礎を作る授業です。積極的に取り組み英語での発信力を高めましょう。毎回辞書を用意すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク (LS毎回 / RW適宜) プレゼンテーション (RW10, 11週 / LS12-15週) ディスカッション (RW適宜)
ICT・オープンエデュケーションの活用	ICT: Web Classでの課題及び解答の提示。プレゼンテーション資料の作成及び提出。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
中村公子、ELEC			
Subject Code : G16C30			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>(授業概要) 読む・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく身につけられるよう、Reading/Writingを日本人講師から、Listening/Speakingをネイティブ講師から学ぶ。RWでは、英文を正確に読み取るためのリーディングスキルと、自らの考えを伝えるためのライティング技法を学ぶ。LSでは、ビジネスシーンでのコミュニケーションが円滑に運ぶための表現やフレーズを学び、ロールプレイなどのアクティビティを通して身につける。すべての内容を通じて英語圏におけるものの考え方や文化的背景を知る。</p> <p>(授業目標) ◎E：多角的なアプローチにより、4技能のバランスの取れたスキルアップを図る。 ○D：グローバルな視点を身につける</p> <p>(Listening and Speaking Class) B：Understand and use a range of phrases to repair communication breakdowns and maintain smoother conversations. D：Understand and use vocabulary related to their particular area of study.</p> <p>(Reading and Writing Class) E・D：さまざまな国の観点から書かれた文章を読み、英語特有の表現パターンを身につける。</p>
授業計画	<p>1 Listening and Speaking Class(LS): Review from semester 1/ Reading and Writing Class(RW): Unit 6 Food and Digestion LS: ESP Language Review from semester 1 RW: Review from Semester 1 / Healthy Food (グループワーク / Web Class)</p> <p>2 LS: Unit 7: Work (Textbook p40-42) / RW: Unit 6 Food and Digestion LS: Jobs and Duties RW: Digestion (グループワーク / Web Class)</p> <p>3 LS: Unit 7: Work (Textbook p43, 45) / RW: Unit 6 Food and Digestion LS: Jobs and Duties (continued); Leaving a Message by Phone RW: Digestion, Sugar and Insulin (グループワーク / Web Class)</p> <p>4 LS: ESP④ / RW: Review Unit 6 Food and Digestion LS: Essential Macronutrients and their Sources RW: Review (グループワーク / 動画視聴 / Web Class)</p> <p>5 LS: Unit 8: Appointments (Textbook p46-48) / RW: Unit 1 Cells and growth LS: Meeting Times and Dates, Vocabulary quiz, unit 7 RW: Unit 6 小テスト / Inside Your Cells (グループワーク)</p> <p>6 LS: Unit 8: Appointments (Textbook p49-50, 51 module 8.8) / RW: Unit 1 Cells and growth LS: Scheduling Meetings; Changing Arrangements by Phone RW: Different Cells, Cell Reproduction (グループワーク / Web Class)</p> <p>7 LS: ESP⑤ / RW: Unit 2 Skin, Hair, and Nails LS: Essential Micronutrients and their Sources RW: Unit 1 小テスト / Your Skin (グループワーク)</p> <p>8 LS: Unit 11: Requests and Offers (Textbook p64-66) / RW: Unit 2 Skin, Hair, and Nails LS: Making Polite Requests; Deadlines, Vocabulary quiz, unit 8 RW: Your hair, Your Nail (グループワーク / Web Class)</p> <p>9 LS: Unit 11: Requests and Offers (Textbook p67-68, 69 module 11.7) / RW: Unit 3 Bones and Muscles LS: Making Polite Offers; Making Requests by Phone RW: Unit 2 小テスト / Your Skeleton, Inside Your Bones (グループワーク)</p> <p>10 LS: ESP⑥ / RW: Unit 3 Bones and Muscles LS: Food Labels RW: Your Muscles (グループワーク / Web Class)</p> <p>11 LS: Review / RW: Unit 3 Bones and Muscles LS: Previous material from units 7, 8 and 11, Vocabulary quiz, unit 11 RW: Protein and Calcium (グループワーク / Web Class)</p> <p>12 LS: Role-Play Preparation - Day 1 / RW: Unit 5 Blood and Circulation LS: Preparations for Role-Play Preparations</p>

	<p>RW: Unit 3 小テスト / How Your Heart Works (グループワーク / ロールプレイプレゼンテーション / Web Class)</p> <p>13 LS: Role-Play Preparation - Day 2 / RW: Unit 4 Lungs and Breathing LS: Preparations for Role-Play Preparations RW: Breathing In/Out, Asthma, Smoking (グループワーク / ロールプレイプレゼンテーション / Web Class)</p> <p>14 LS: Role-Play Presentations - Day 1 / RW: Unit 8 Your Body's Defenses LS: Role-Play Presentations RW: Unit 4, 5 小テスト / Healing Broken Bones and Cuts (グループワーク / ロールプレイプレゼンテーション)</p> <p>15 LS: Role-Play Presentations - Day 2, Course wrap-up / RW: Unit 8 Your Body's Defenses LS: Role-Play Presentations RW: Help Your Body (グループワーク / ロールプレイプレゼンテーション)</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>◎E: 英文の内容を正しく理解できる。英語らしい表現で自らの考えを表現することができる。 ○D: 英語圏の文化や発想を知り、場面に適したコミュニケーションをとることができる。</p> <p>(LS) B: Perform common communicative tasks, including using the telephone, making appointments, agreeing/disagreeing, and giving directions. D: Understand and use a variety of language to talk about themselves and their workplaces.</p> <p>(RW) E: スキミングやスキヤニングなどのリーディング技法を用いて、英文の主旨を正確に掴むことができる。 D: 語彙力を増やし、さまざまな表現を用いて、自らの考えを英語で伝えることができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習 (LR) Prepare for their presentations (writing and editing their scripts, practice reading their scripts out loud etc.). (約20分) (RW) 小テストに備えて学習する。発表等の準備を進める。(約20分)</p> <p>事後学習 (LR) Homework is required, and should be a review of target language studied in class. Towards the end of the semesters, students are expected to continue work on their presentations out of class. (約20分) (RW) 小テストに備えて学習する。発表等の準備を進める。(約20分)</p>
指導方法	<p>(LR) This course progresses in three-lesson cycles. In the first two lessons, students focus on general business English that can be used in a variety of contexts. In the third lesson of the cycle, students focus on vocabulary specific to their area to study. In these lessons, where possible, students practice using this specific vocabulary in previously studied situations. After each cycle, a vocabulary quiz is administered to assess language retention and encourage language review. (3レッスンを1ユニットとし、最初の2回でビジネス英語を、3回目では食物関連業務におけるその具体的な活用を指導する)</p> <p>(RW) リーディングスキル(主旨の把握、文章構成など)の育成を目標に、各種ワークやアクティビティを与えながら、楽しんで英文を読むことができるよう指導する。関連する映画や動画なども適宜取り入れる。また、テーマを与えて作文し、それを発表させる機会をもつことで、英語での発信力も養えるよう指導する。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>(LR) B: The students' speaking ability is measured through role-play presentations, and their listening ability is assessed via a listening test. (スピーキング力はロールプレイの発表で、リスニング力はテストで評価する) D: Language retention is assessed by vocabulary quiz. (語彙力は単語テストで評価する)</p> <p>Role-Play Presentation (ロールプレイ発表) 35% Listening Test (リスニングテスト) 25% Vocabulary Quizzes (単語テスト) 20% Participation (貢献度) 20%</p> <p>(RW) E: 各ユニットのワークや課題、定期テストで評価する。 D: 小テストや課題作文、発表等で評価する。 小テスト 20% 課題・提出物・貢献度 30% 定期試験 50%</p> <p>*最終的には、RW/LSそれぞれの評価を合わせて100%としたものを算出する。</p>
テキスト	<p>Business Venture beginner Roger Barnard & Jeff Cady (2016) Oxford University Press Your Amazing Body Robert Quinn (2016) Oxford University Press</p>
参考書	授業の際に指示する
履修上の注意	グローバル化の進む社会での基礎を作る授業です。積極的に取り組み英語での発信力を高めましょう。毎回辞書を用意すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク (LS/RW毎回) ロールプレイプレゼンテーション (LS13-15週)
ICT・オープンエデュケーションの活用	ICT: Web Classでの課題及び解答の提示。プレゼンテーション資料の提出。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
齋藤公一			
Subject Code : G16C31			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) フランス語入門の授業。フランス語は日本人にはとても発音しやすい言葉である。授業ではたいへん規則的にできている文字と音の関係を覚えていき、文法的な説明はできるだけ簡単にし、聞き取りを重視し発音練習をする。さらに、自分や身の周りについての簡単な会話を練習し、楽しく基礎会話力をつけていく。練習問題で反復しながらフランス語に対する不安やストレスを感じないように学習する。また、フランスの文化、生活も紹介していく予定である。 (授業目標) B：フランス語を使ってコミュニケーションをする意欲を深める。 ○D：フランスの文化や社会を知り、日本との違いを確認して、視野を広げることができる。 ◎E：挨拶、願望、意思を伝えるフランス語の基本表現を操作できる。
授業計画	1 オリエンテーション 授業の概要、アンケート 2 アルファベ、日本語の中にあるフランス語、Lecon 1 アルファベ、綴り字の読み方のルール1、「私は～です」 3 アルファベ、Lecon 1自分の名前の綴り字をフランス語のアルファベで言う (プレゼンテーション) 綴り字の読み方のルール2、「私は日本人です」数字(1) 自分の名前をアルファベットで一文字ずつフランス語で言う (各自プレゼンテーション) 4 Lecon 1、Lecon 2 Lecon 1 Exercices、綴り字の読み方のルール3、国籍 5 Lecon 2 綴り字の読み方のルール4、職業、数字(2) 6 Lecon 2、Lecon 3 Lecon 2 Exercices、綴り字の読み方のルール4、名前を言う 7 Lecon 3 (プレゼンテーション) 住んでいる場所を言う、国名、自己紹介 (各自プレゼンテーション) 8 Lecon 3、Lecon 4 Lecon 3 Exercices、綴り字の読み方のルール5、人を紹介する 9 Lecon 4 話せる言葉を聞く・言う、数字(3)、動詞について 10 Lecon 4 1) 動詞 etre 「...である、ある、いる」 2) avoir 「持っている」 11 Lecon 4 Lecon 4 Exercices、フランス語で遊びましょう 12 Lecon 5 「それはどこにありますか？」否定文 13 Lecon 5 (プレゼンテーション) 相手に今までに学んだフランス語で質問する (各自プレゼンテーション) 不定冠詞、数字(4) 14 Lecon 6 Lecon 5 Exercices、年齢、数字(5)、曜日 15 Lecon 6 Lecon 6 Exercices、Revisions
学習成果・到達目標・基準	B：フランス語圏の人と臆せず基本的なコミュニケーションができる。 ○D：フランスだけでなく外国に関心を持ち、日本を今までと違う角度から見るができる。 ◎E：基本的なフランス語の表現ができる。
事前・事後学習	事前学習：前回学んだ講義内容をノートに改めて書き写し、練習問題を解く。(45分程度) テキストを音読し、文章を覚える。(45分程度) 事後学習：今回学んだ内容をまず音読し、講義内容を理解しているかどうか確認する。(60分程度)
指導方法	教科書の内容を板書で分かりやすく説明をする。CDでフランス語の音を聞き、次に文字の読み方をしっかり確認しながらフランス語を声に出して発音してもらう。基本表現をまさに「身」につけて表現力を拡張していく。そうした表現を実際に使ってみるまで会話の練習をする。全員が初心者なので恥ずかしがったり照れたりしないように、失敗を恐れさせず楽しく進めていく。 フィードバックの方法：授業内課題を出し、コメント記載のうえ返却する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：間違いを恐れずに相手に伝えるという意欲を評価する。 D：授業での課題・筆記試験を評価する。 E：授業での口頭の受け答えを評価する。 授業での課題20%、定期試験60%、授業態度20%

テキスト	Loic Rogues 「プティットウ・コンヴェルサスィオン」 (駿河台出版社) 2300円+税
参考書	
履修上の注意	フランス語をやりたいという漠然とした意思だけでなく、できれば何らかの目標 (フランスへ行きたいとか、フランス人とフランス語で話したいとか) を自分なりに設定しておくとう学習意欲は少なからず湧いてくる。積み重ねが大切なので飽きたり、あきらめたりしないように。1回でも欠席するとそれをきっかけに分からなくなるので欠席は極力しないように。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
齋藤公一			
Subject Code：G16C32			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) フランス語入門の授業。フランス語は日本人にはとても発音しやすい言葉である。授業ではたいへん規則的にできている文字と音の関係を覚えていき、文法的な説明はできるだけ簡単にし、聞き取りを重視し発音練習をする。さらに、自分や身の周りについての簡単な会話を練習し、楽しく基礎会話力をつけていく。練習問題で反復しながらフランス語に対する不安やストレスを感じないように学習する。また、フランスの文化、生活も紹介していく予定である。 (授業目標) B：フランス語を使ってコミュニケーションをする意欲を深める。 ○D：フランスの文化や社会を知り、日本との違いを確認して、視野を広げることができる。 ◎E：挨拶、願望、意思を伝えるフランス語の基本表現を操作できる。
授業計画	1 Lecon 7 体調を伝える、数字(6)、etre、 2 Lecon 7、Lecon 8 (プレゼンテーション) Lecon7 Exercices、もの(1)、値段を聞く、買い物(各自プレゼンテーション)、数字(7) 3 Lecon 8 Lecon 8 Exercices、Revisions、Cahier de vacances 4 Lecon 9 物(2)、「～があります」、不定冠詞と定冠詞 5 Lecon 10 (プレゼンテーション) Lecon 9 Exercices、好みについて話す(各自プレゼンテーション)、Est-ce que、数字(8) 6 Lecon 11 Lecon 10 Exercices、スポーツについて話す、数字(9)、いろいろな動詞の原形、 7 Lecon 12 (プレゼンテーション) Lecon 11 Exercices、家族について話す(各自プレゼンテーション)、数字(10)、所有形容詞 8 Lecon 12 Lecon 12 Exercices、Revisions、動詞の活用 9 Lecon 13 時刻、電車の切符を買う、学校の時間割を聞く・言う、数字(11)、 10 Lecon 14 (プレゼンテーション) Lecon 13 Exercices、料理(1)と飲み物、カフェで注文する(各自プレゼンテーション)、数字(12) 11 Lecon 15 Lecon 14 Exercices、料理(2)、食材を買う、数字(13)、部分冠詞 12 Lecon 15、dans la classe Lecon 14 Exercices、日常でよく使う言葉 13 supplement 1 Lecon 1～5 14 supplement 2 Lecon 6～10 15 supplement 3 Lecon 11～15
学習成果・到達目標・基準	B：フランス語圏の人と臆せず基本的なコミュニケーションができる。 ○D：フランスだけでなく外国に関心を持ち、日本を今までと違う角度から見ることができる。 ◎E：基本的なフランス語の表現ができる。
事前・事後学習	事前学習：前回学んだ講義内容をノートに改めて書き写し、練習問題を解く。(45分程度) テキストを音読し、文章を覚える。(45分程度) 事後学習：今回学んだ内容をまず音読し、講義内容を理解しているかどうか確認する。(60分程度)
指導方法	教科書の内容を板書で分かりやすく説明をする。CDでフランス語の音を聞き、次に文字の読み方をしっかり確認しながらフランス語を声に出して発音してもらう。基本表現をまさに「身」につけて表現力を拡張していく。そうした表現を実際に使ってみるまで会話の練習をする。全員が初心者なので恥ずかしがったり照れたりしないように、失敗を恐れさせず楽しく進めていく。 フィードバックの方法：授業内課題を出し、コメント記載のうえ返却する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：間違いを恐れずに相手に伝えるという意欲を評価する。 D：授業での課題・筆記試験を評価する。 E：授業での口頭の受け答えを評価する。 授業での課題20%、定期試験60%、授業態度20%

テキスト	Loic Rogues 「プティットウ・コンヴェルサシオン」 (駿河台出版社) 2300円+税
参考書	
履修上の注意	フランス語をやりたいという漠然とした意思だけでなく、できれば何らかの目標 (フランスへ行きたいとか、フランス人とフランス語で話したいとか) を自分なりに設定しておくこと学習意欲は少なからず湧いてくる。積み重ねが大切なので飽きたり、あきらめたりしないように。1回でも欠席するとそれをきっかけに分からなくなるので欠席は極力しないように。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
I C T・オープンエデュケーションの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
史 悦			
Subject Code : G16C33			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) この授業は初めて中国語を勉強するものを対象とし、中国語の発音・声調から、別れ、お礼、お詫びなどの挨拶をはじめとした基本的な会話表現を身に付ける。 (授業目標) ◎B：中国語の発音の仕方をおぼえ、語彙力を増やし、挨拶用語、基本的な文法事項や会話表現を身に付けて中国語によるコミュニケーション能力を向上させることができる。 ○E：「読む・書く・聞く・話す」の4つの技能のうち「聞く・話す」能力を養成し、「HSK 中国漢語水平考試」(中国国家教育部認可の中国語国家試験)の「1級」レベル到達を目標とする。		
授業計画	1	ガイダンス 自己紹介、授業内容、授業の進め方、学ぶ方法に関する説明。 挨拶：こんにちは ピンイン：声調と母音(単母音)	
	2	発音、挨拶 ピンイン：複合母音(二重母音・三重母音) 挨拶：ありがとう。	
	3	発音、文法 (グループワーク) ピンイン：子音、巻舌音その他の子音 文法：疑問代詞“何に?”、“是”構文、疑問文 グループワーク：自己紹介	
	4	発音、文法 (ペアワーク) ピンイン：前鼻音n、後鼻音ngの区別、zhi, ch, sh, rの区別 文法：彼女は～です。 ペアワーク：写真中の人を紹介する。	
	5	発音練習、文法 (ペアワーク) 発音練習：r化の発音、有気音と無気音の区別 文法：1. 100までの数字 2. 変化を表す“了” ペアワーク：家族の状況を紹介する。	
	6	発音練習、文法 (ペアワーク) 発音練習：2音節の声調の組み合わせ① 文法：1. 能願動詞“会”① 2. 形容詞述語文 3. 疑問代詞“どうですか?”① ペアワーク：相手の実際の状況に基づいて、会話を練習する。	
	7	発音練習、文法 (グループワーク) 発音練習：2音節の声調の組み合わせ② 文法：1. 日にちの表し方①：月、日、曜日 2. 名詞述語文 3. 連動文 グループワーク：生年月日を尋ねる。	
	8	発音練習、文法 (グループワーク) 発音練習：2音節の声調の組み合わせ③ 文法：1. 能願動詞“想” 2. 金額の表し方 3. 疑問代詞“多少” グループワーク：一週間計画	
	9	発音練習、文法 (グループワーク) 発音練習：2音節の声調の組み合わせ④ 文法：……どこですか? ……で～します。 グループワーク：友達の仕事を尋ね、発表する。	
	10	“有”を使った文 (グループワーク) 発音：軽声の読み方 文法：“有”を使った文、能願動詞“能” グループワーク：グループのメンバーの座席の位置を紹介する。	
	11	時間の表し方 (グループワーク) 発音：軽声の機能 文法：時間の表し方、時間詞と状語 グループワーク：お互いに1日の生活習慣を尋ね、発表する。	
	12	主述述語文 (ペアワーク) 発音：3音節の声調の組み合わせ① 文法：1. 主述述語文 2. 能願動詞“会”② ペアワーク：天気状況を尋ねる。	
	13	“在……?”進行形 (ペアワーク) 発音：3音節の声調の組み合わせ② 文法：“在……?”進行形、電話番号の表し方 ペアワーク：お互いの電話番号を尋ね、発表する。	
	14	発生また完成を表す“了” (グループワーク) 発音：3音節の声調の組み合わせ③ 文法：発生または完成を表す“了” グループワーク：1日の活動について尋ねて、グループごとにまとめを発表する。	

	15 “是……的”構文：強調する（グループワーク） 発音：3音節の声調の組み合わせ④ 文法：“是……的”構文：強調する グループワーク：中国語の勉強経歴について、会話を練習する。
学習成果・到達目標・基準	◎B：基本発音を習得し、ピンインを読んで発声できる。中国語での挨拶や自己紹介、ものの尋ね方と答え方、疑問文、形容詞表現、買い物等での簡単な基本表現を身に付ける。 ○E：1週間に5前後のキーセンテンスと、10ほどの単語を覚え、1学期間で70のキーセンテンスと、150程度の単語を自由に使えるようになる。最低限でピンインを読める、基本の挨拶と自己紹介ができるようになる。
事前・事後学習	事前学習：テキストの音声ファイルをダウンロードして、発音と本文を繰り返し予習し、分からない語彙を調べてくる。（45分以上） 事後学習：語彙の暗記、本文の暗唱をし、宿題（毎回の授業で指示する）を完成させる。テキストの音声ファイルを聞きながら、実際に声を出して練習してくる。（45分以上）
指導方法	ほぼ毎回小テスト（筆記）を行う。難しい発音も繰り返し練習して身に付けられるよう、克服のコツを指導する。 フィードバックの仕方：①小テスト実施 ②小テストの結果にコメント記載のうえ返却 ③授業後におけるコメントへの質問対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：グループワーク・授業での発言等積極性を評価する。 E：課題の提出と小テスト結果、定期試験結果を評価する。 評価の割合は：事前課題20%、小テスト20%、授業態度・発言20%、定期試験40%とします。
テキスト	『中国語の世界標準テキスト1』北京語言大学出版社編、 出版社：株式会社スプリックス 出版日：2015年8月1日
参考書	以下のものを推薦します。 中日辞典：『小学館中日辞典（第3版）』、『講談社中日辞典（第3版）』、『東方中国語辞典』 日中辞典：『小学館日中辞典（第3版）』、『講談社日中辞典』 電子辞書を利用する場合も、上に挙げた中国語辞典を搭載したものを選んでください。 文法参考書：『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』（相原茂ほか著・同学舎）
履修上の注意	履修者が自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に事前事後学習に取り組むことも強く期待される。事前事後学習を十分に行わなければ、身につけるべき内容を消化できなくなる可能性があるため、真剣かつ計画的に取り組んでほしい。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク・グループワーク
ICT・オープンエデュケーションの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
史 悦			
Subject Code:G16C34			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 中国語の発音、語彙、文法、表現などの各要素を丁寧に偏りなく学習し、全体として初級レベルの基礎をしっかりと身につけます。中国語の勉強と同時に日本と異なる文化への理解を深め、視野を広げます。 (授業目標) ◎B：中国語の発音の仕方をおぼえ、語彙力を増やし、挨拶用語、基本的な文法事項や会話表現を身に付けて中国語によるコミュニケーション力を向上させることができる。 ○E：「読む・書く・聞く・話す」の4つの技能のうち「聞く・話す」能力を養成し、「HSK 中国漢語水平考試」(中国国家教育部認可の中国語国家試験)の「2級」レベル到達を目標とする。
授業計画	1 復習・概数の表し方 1. 春学期の学習内容の復習 2. 概数の表し方：几、多 2 疑問文 (グループワーク) 1. “是不是”を使った疑問文 2. 代詞“每”、疑問代詞“多” 3. グループワーク：お互いに相手の基礎情報と運動状況について尋ねて、発表する。 3 “的”を使った文 (ペアワーク) 1. “的”を使った文 2. “一下”を使った文、副詞“真” 3. ペアワーク：どれが誰の物が尋ねて、確認する。 4. “是……的”構文 (ペアワーク) 1. “是……的”構文：行為を強調する。 2. 時間を表す：……時 3. ペアワーク：中国語の学習歴について話す。 5. 副詞 (グループワーク) 1. 副詞：“就”“還”① 2. “有点儿” 3. グループワーク：ある物事に対する見方を尋ねる。 6. 関連詞 (ペアワーク) 1. 疑問代詞“怎？” 2. 原因表し関連詞 3. ペアワーク：“怎？”を用いてお互いにQ&Aを練習する。 7. 場所、時間、目的の距離を表す (グループワーク) 1. 場所、時間、目的の距離を表す。 2. 副詞“就”“還”② 3. グループワーク：お誕生日のお祝いの仕方について尋ね、話す。 8. 兼語文、動詞の重ね型 (ペアワーク) 1. 疑問文“……，好？？” 2. 兼語文 3. 動詞の重ね型 4. ペアワーク：兼語文使って、お互いに練習する。 9. 結果補語、順序を表す (ペアワーク) 1. 結果補語 2. 順序を表す“第～” 3. ペアワーク：自分の趣味について話す。 10. 命令文 (グループワーク) 1. 命令文：“不要……了” / “別……了” 2. 介詞：“对” 3. グループワーク：“对”を使って文を作る。 11. 比べるを表す (ペアワーク) 1. 比べるを表す“比”構文① 2. 定語になる動詞 3. 助動詞“可能” 4. グループワーク：実際の状況に合わせて“比”の構文を作る。 12. 状態補語 (ペアワーク) 1. 状態補語 2. 比べるを表す“比”構文 3. グループワーク：“比”構文を並べるゲームをする。 「A比B+V+得+adj 」、「A+V+得+比B+adj 」の文型を使い、練習する。 13. 状態の表し方 (グループワーク) 1. アスペクト助詞“着” 2. 反語文“不是……？？” 3. 介詞“往” 4. グループワーク：アスペクト助詞“着”を用いて写真の内容を述べる。

	<p>14. 経験を伝えるときに使う表現 (グループワーク)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アスペクト助詞“過” 2. 関連詞“……但是……” 3. 動量詞“次” 4. グループワーク：アスペクト助詞“過”を用いて自身が経験した事を話してみる。 <p>15. 動作の状態の表し方 (グループワーク)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 動作の状態“要……了” 2. “都……了”構文 3. グループワーク：新年の計画について、話してみる。
学習成果・到達目標・基準	<p>◎B：前期の学習に引き続き、様々な場面で用いる実用的な会話文をする力を身につける。また「ピンイン」を正確に読み、聞き取る力も徹底的にトレーニングする。初級文法を学び、聴解力を高めるとともに読解力の養成も行う。</p> <p>○E：最低限でも学んだ基本的な文法を使って、簡単な文章を作成することができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：テキストの音声ファイルをダウンロードして、発音と本文を繰り返し予習し、分からない語彙を調べてくる。(30分以上)</p> <p>事後学習：語彙の暗記、本文の暗唱をし、宿題・レポート(毎回の授業で指示する)を完成させてくる。CDを聞きながら、実際に声を出して練習してくる。(60分以上)</p>
指導方法	<p>ほぼ毎回小テスト(筆記)を行う。習った文法・フレーズを応用して、ペアワーク・グループワークでディスカッションする。楽しく勉強しながら中国語のレベルを高めていく。</p> <p>HSK問題の類型を熟知させ、出題傾向を把握させるようにする。また、HSK試験を受験したい場合、個別指導にも対応する。</p> <p>フィードバックの仕方：①小テスト実施 ②小テストの結果にコメント記載のうえ返却 ③授業後におけるコメントへの質問対応</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>B：ペアワーク・グループワーク・授業での態度・発言等積極性を評価する。</p> <p>E：課題の提出と小テスト結果、定期試験結果を評価する。</p> <p>評価の割合は：事前課題20%、小テスト20%、授業態度・発言20%、定期試験40%とします。</p>
テキスト	<p>『中国語の世界標準テキスト2』北京語言大学出版社編， 出版社：株式会社スプリックス 出版日：2015年8月1日</p>
参考書	<p>以下のものを推薦します。</p> <p>中日辞典：『小学館中日辞典(第3版)』、『講談社中日辞典(第3版)』、『東方中国語辞典』</p> <p>日中辞典：『小学館日中辞典(第3版)』、『講談社日中辞典』</p> <p>電子辞書を利用する場合も、上に挙げた中国語辞典を搭載したものを選んでください。</p> <p>文法参考書：『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』(相原茂ほか著・同学舎)</p>
履修上の注意	<p>履修者が自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組むことも強く期待される。準備学習を十分に行わなければ、身につけるべき内容を消化できなくなる可能性があるため、真剣かつ計画的に取り組んでほしい。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>ペアワーク、グループワーク</p>
ICT・オープンエデュケーションの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
姜 瑢嬉			
Subject Code:G16C35			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) ハングル(韓国語の文字)の読み書きを練習し、基本文型の習得や応用練習を通じて韓国語の基礎をしっかりと学ぶ。また、韓国語での基礎表現に自信を持てるように、簡単な日常会話や表現ができるように演習を重ねる。 (授業目標) A：学習目標に興味を持ち、グループワークに積極的に参加することができる。 ◎B：基本的な日常会話を覚え、正しい韓国語を話すことができる。 C：学習内容の応用練習を通じ、学習問題を解くことができる。 ○D：語彙力を増やし、聞き取りができるようになる。 E：様々な教室活動の中で自分の考えを取り入れて表現することができる。
授業計画	1 ガイダンス及び文字と発音(基本母音) (グループワーク：必ず全員参加。韓国語で挨拶) 韓国語の自己紹介表現の紹介と練習 授業内容と計画などを紹介 韓国語文字(ハングル)の紹介と基本母音字(10個)習得 2 文字と発音(合成母音) 基本母音字(10個)復習 合成母音字(11個)習得 授業前に小テスト：基本母音確認 3 文字と発音(基本子音) 基本母音・合成母音の復習 基本子音の(14個)の習得 授業前に小テスト：基本母音、合成母音確認 4 文字と発音(濃音、終声音) 基本母音・子音・合成母音の復習 濃音(5個)と終声音(パッチム)の習得 授業前に小テスト：基本母音、合成母音、基本子音確認 5 文字と発音(総合練習)、基本挨拶(グループワーク：ハングル読む練習。自分の名前をハングルで書いてみること。) ハングルの読み書き総合練習・確認 挨拶表現紹介・教室用語紹介 授業前に小テスト：ハングル読み書き総合確認 6 日常会話① 私は日本人です (グループワーク：文法内容練習) 挨拶・自己紹介 助詞：～は 名詞＋～です。名詞＋～ですか？(丁寧語) 授業前に小テスト：ハングル読み書き確認 授業中テスト：文法内容確認テスト 7 日常会話① 私は日本人です (グループワーク：会話文実習、プレゼンテーション) 1課文法内容復習 会話文実習(自己紹介) 自己紹介プレゼンテーション 授業前に小テスト：1課文法確認 8 日常会話② 日本人ではありません (グループワーク：文法内容練習) 助詞：～が 否定の言い方(～ではありません) 名詞＋～ではありません(丁寧語) 授業前に小テスト：日常会話①復習 授業中テスト：文法内容確認テスト 9 日常会話② 日本人ではありません (グループワーク：会話文実習) 2課文法内容復習 会話文実習 授業前に小テスト：2課文法確認 10 日常会話③ それは何ですか(グループワーク：文法内容練習) 名詞＋～です。名詞＋～ですか(カジュアル丁寧語) 名詞＋～ではありません(カジュアル丁寧語) 授業前に小テスト：日常会話②復習 授業中テスト：文法内容確認テスト 11 日常会話③ それは何ですか (グループワーク：会話文実習、プレゼンテーション) 3課文法内容復習 会話文実習 プレゼンテーション 授業前に小テスト：3課文法確認 12 日常会話④ 約束があります (グループワーク：文法内容練習) 存在の表現(丁寧語、カジュアル丁寧語) あります。います。／ありません。いません。 ありますか。いますか。／ありませんか。いませんか。

	<p>13 授業前に小テスト：日常会話③復習 授業中テスト：文法内容確認テスト 日常会話④ 約束があります (グループワーク：会話文実習) 4課文法内容復習 会話文実習 授業前に小テスト：4課文法確認</p> <p>14 日常会話⑤ 会社はどこにありますか (グループワーク：文法内容練習) 位置を表す表現 ～はどこにありますか？ ～にあります</p> <p>15 授業前に小テスト：日常会話④復習 授業中テスト：文法内容確認テスト 日常会話⑤ 会社はどこにありますか (グループワーク：会話文実習) 5課文法内容復習 会話文実習 授業前に小テスト：5課文法確認</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>A：グループで話し合いや実習を通じ韓国語に抵抗なく勉強することができる。 ◎B：韓国語で挨拶や自己紹介ができる。 C：日にち・値段・番号などを読むことができる。 ○D：簡単な質問にはい・いいと答えることができる。 E：自分の感情を形容詞を使い韓国語で表現できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：教科書の語彙を予習として覚えること。(20分) 教科書の文法内容を読んで学習内容について調べること。(5分) CDを聞きながら実際に声を出して発音の練習をすること。(10分) 事後学習：教科書の文型練習や応用練習を解いてみること。(20分) CDを聞きながら声を出して練習し、内容を覚えること。(10分) 覚えにくい語彙や文法内容をノートに書きながら整理すること。(10分)</p>
指導方法	<p>教科書をメインにして順序よく進め、内容によりパワーポイント等を使用する。 一方的な講義ではなくグループワーク、実習、プレゼンテーション等を積極的に取り入れる。 フィードバックの仕方：課題については返却後に個別対応する。小テストを行い、採点・返却時に解説を行う。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>A：グループ内で参加態度や授業貢献度を評価する。 B：授業中の参加態度及び質疑対応を評価する。 C：小テスト、課題を評価する。 D：定期試験を評価する。 E：プレゼンや提出物を評価する。</p> <p>定期試験50%、授業への参加態度・貢献度30%、課題・小テスト等20%</p>
テキスト	<p>李志暎『できる韓国語 初級 I』DEKIRU出版, 2018年5月1日新装版 姜瑤嬉『もじもじハンゲル』スリーエーネットワーク 2005年4月26日初版</p>
参考書	
履修上の注意	<p>毎回の授業内容が大事ですので、やむを得ない事情以外には出席してください。 予習・復習をとぎれることなく積み重ねていきましょう。 グループワークには積極的に参加すること。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>グループワーク、プレゼンテーション</p>
ICT・オープンエデュケーションの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
姜 珞嬉			
Subject Code:G16C36			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 教科書に沿って簡単な日常会話を学び、自分の意見や考えなどを伝える文ができるように練習を重ねる。 【授業目標】 A：グループワークをクラスで協働しながら、楽しく韓国語を身に付ける。 ◎B：簡単な韓国語の質問に答えることができる。 C：正しい単語を使い答えることができる。 ○D：基本文型や文法が理解できる。 E：語彙を増やして、自分の意見を表現できる。
授業計画	<p>1 ガイダンスと韓国語1の復習 授業内容と計画などを紹介 韓国語1の復習と総合練習 動詞と形容詞紹介 宿題：動詞と形容詞暗記 (P73、P79)</p> <p>2 日常会話⑥ 週末は何をしますか (グループワーク：文法内容練習) 動詞と形容詞の丁寧語 動詞＋～ます。 / 形容詞＋～です。 動詞＋～ますか? / 形容詞＋～ですか? 並列の表現 (～して、～くて) 授業前に小テスト：動詞と形容詞暗記確認 授業中テスト：文法内容確認テスト</p> <p>3 日常会話⑥ 週末は何をしますか (グループワーク：会話文実習) 6課文法内容復習 会話文を使い練習 授業前に小テスト：6課文法内容確認</p> <p>4 日常会話⑦ そんなに遠くありません (グループワーク：文法内容練習) 動詞と形容詞の否定文 動詞＋～ではありません 形容詞＋～くありません ～から～まで 授業前に小テスト：日常会話⑥復習 授業中テスト：文法内容確認テスト</p> <p>5 日常会話⑦ そんなに遠くありません (グループワーク：会話文実習) 7課文法内容復習 会話文を使い練習。 授業前に小テスト：7課文法内容確認</p> <p>6 日常会話⑧ いついきますか (グループワーク：文法内容練習) 漢数詞の習得。 日にち、値段、番号…などの数字を読む 感嘆や同感の表現 (～ですね。～ますね。) 授業前に小テスト：日常会話⑦復習 授業中テスト：文法内容確認テスト</p> <p>7 日常会話⑧ いついきますか (グループワーク：会話文実習) 8課文法内容復習 会話文を使い実習 授業前に小テスト：8課文法内容確認</p> <p>8 日常会話⑨ 釜山までどうやって行きますか (グループワーク：文法内容練習) カジュアル丁寧語習得 ～です。～ます。 授業前に小テスト：日常会話⑧復習 授業中テスト：文法内容確認テスト</p> <p>9 日常会話⑨ 釜山までどうやって行きますか (グループワーク：会話文実習) 9課文法内容復習 会話文を使い実習 授業前に小テスト：9課文法内容確認</p> <p>10 日常会話⑩ 何時からですか (グループワーク：文法内容練習) 固有数字の習得 時間・回・才・個数…などを数えながら読む 授業前に小テスト：日常会話⑨復習 授業中テスト：文法内容確認テスト</p> <p>11 日常会話⑩ 何時からですか (グループワーク：会話文実習) 10課文法内容復習 会話文を使い実習 授業前に小テスト：10課文法内容確認</p> <p>12 日常会話⑪ いつ日本へ来ましたか (グループワーク：文法内容練習)</p>

	<p>過去形の表現 動詞・形容詞・名詞文それぞれの過去形 授業前に小テスト：日常会話⑩復習 授業中テスト：文法内容確認テスト</p> <p>13 日常会話⑪ いつ日本へ来ましたか (グループワーク：会話文実習) 11課文法内容復習 会話文を使い実習 授業前に小テスト：11課文法内容確認</p> <p>14 総合復習① (プレゼンテーション) 授業前に小テスト：日常会話⑩復習 全員でプレゼンテーション グループ別に今まで覚えた単語や文型を使い会話文を作成、発表</p> <p>15 総合復習② (プレゼンテーション) 全員でプレゼンテーション グループ別に今まで覚えた単語や文型を使い会話文を作成、発表</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>A：会話文をグループで練習しながら、楽しく覚えられる。 ◎B：カジュアル丁寧語を使い話すことができる。 C：過去形が区別できる。 ○D：韓国語の時間、年齢などが理解できる。 E：漢数字・固有数詞を使い話すことができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：教科書の語彙を予習として覚えること。(20分) 教科書の文法内容を読んで学習内容について調べること。(5分) CDを聞きながら実際に声を出して発音の練習をすること。(10分)</p> <p>事後学習：教科書の文型練習や応用練習を解いてみること。(20分) CDを聞きながら声を出して練習し、内容を覚えること。(10分) 覚えにくい語彙や文法内容をノートに書きながら整理すること。(10分)</p>
指導方法	<p>教科書をメインにして順序よく進め、内容によりパワーポイント等を使用する。 一方的な講義ではなくグループワーク、実習、プレゼンテーション等を積極的に取り入れる。 フィードバックの仕方：課題については返却後に個別対応する。小テストを行い、採点・返却時に解説を行う。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>A：グループ内で参加態度や授業貢献度を評価する。 B：授業中の参加態度及び質疑対応を評価する。 C：小テスト、課題を評価する。 D：定期試験を評価する。 E：プレゼンや提出物を評価する。</p> <p>定期試験50%、授業への参加態度・貢献度30%、課題・小テスト等20%</p>
テキスト	李志暎『できる韓国語 初級 I』DEKIRU出版, 2018年5月1日新装版
参考書	
履修上の注意	<p>毎回の授業内容が大事ですので、やむを得ない事情以外には出席してください。 予習・復習をとぎれることなく積み重ねていきましょう。 グループワークには積極的に参加すること。</p>
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	